

'85東京モーターショーで衝撃のデビュー!

YZR feeling **TZR250** 新発売



YZR feeling TZR250 新発売!

●標準現金価格：54万9千円
(北海道、沖縄は6千円高)
●カラー：ホワイト



最高出力45PS/9500rpm、最大トルク3.5kg-m/9000rpm。低速から高速まで回転全域でスムーズでシャープなレスポンスを発揮するクランク室リードバルブエンジン。

エンジン・ジャストたちに グランプリ・マシンのファイアーリングを

テクニクとマナーをわきまえた真のエンジン・ジャストたちに、スーパースポーツの究極・グランプリマシンのファイリングをぜひ味わって欲しい——世界中のサーキットを駆け巡るヤマハのレーシングスタッフ、そんな熱い思いを込めてつくりあげた珠玉の1台、その名も「TZR250」。

姿、カタチだけのレーサーレプリカとは厳然と一線を画した「TZR250」。メカニズム、スタイリング、パフォーマンスそして走行フィーリング……そのすべてにヤマハのレーシングスピリットをみなぎらせて、11月1日より新発売です。



RZ250RRに比べ約40%軽く、40%剛性アップしたアルミ・デルタボックスフレーム。'86TZR250のフレームの基本にもなったこの先進のフレームが、かつてないマン・マシン一体感を生み出す

新 開発の水冷・2サイクル・パラレルツインエンジンは、YZR500や'86TZR250と同様に樹脂製リードバルブ装備のクランク室吸気方式を採用。同

250CC専用設計の クランク室リードバルブエンジン+ ドライサンプ潤滑ミッション



時に4ℓの大容量エアクリナー、フラットバルブ式キャブレター、理想的な燃焼を生む半球型燃焼室、ヤマハ独自のY.P.V.S.、多段膨張タイプ・チャンパー型マフラーなどレーシング・テクノロジーのフル投入によって、低速から高速までゆとりあるパワーとトルクを発揮。あわせてレーサーゆずりの強烈な加速ファイリングを生み出しています。

フ ラットバルブ式キャブレターの採用は、とくに吸入効率を高めてパワーアップに貢献するばかりでなく、ショートストローク化、クランクまわりの軽量化などと相まってスロットル・レスポンスを格段にシャープなものとしています。

オ ートループ潤滑も、RZV500Rでその効果を実証しているY.P.V.S.連動型を採用。これは新開発のリンク機構でスロットルワイヤーとY.P.V.S.サーボモーターワイヤーを連結し、これまでスロットル開度によってのみコントロールしていたオイル吐出量を、エンジン回転数にも対応させたものです。

これにより、エンジン回転の急激な変化にも適正量のオイルをつねに安定供給し、オイル消費量をRZ250RRに比



べ約60%も低減させています。また、このY P V S連動型オートループは、こうしたランニングコストの低減とあわせて、白煙の吐出、カーボンの推積、タールによるマフラー先端の汚れなどの低減にも大きな効果を発揮します。

高性能エンジンを支える、理想的な高効率水冷システム。

6 速トランスミッションの潤滑には、エンジンの高性能化、軽量・コンパクト化、さらにはランニングコストの低減など多くのメリットを生み出すドライサンブ方式を採用。

トロコイドポンプによりクランクケース内のオイルタンクからギヤシャフトとクラッチに直接オイルを圧送するこのシステムは、オイルの攪拌によるパワーロスやオイルの劣化を大幅に低減させ、同時に

軽量・高剛性のアルミデルタボックスフレームに前後17吋ホイールそして大口径フローティングディスクブレーキ

車 体関係の最大の特徴は、もちろんアルミデルタボックスフレームの採用です。シンプルで合理的なレイアウトを追求したYZR500のデルタボックスフレームは、世界GPで鍛え抜かれること3年、いよいよ熟成の域を迎えています。このテクノロジーをそのままフィードバックして完成させたのが「TZR250」のアルミデルタボックスフレームです。

これは、ステアリングヘッドとピボット部をアルミボックスフレームで直線的に結び、さらにその側面形状をデルタ形にしています。これにより鋼管フレームをはるかにしのぐ超高剛性を得て、シユアな操安性を一段と高めるとともにRZ

に800cc（RRは1700cc）という少量のオイルで確実な潤滑を実現しています。

より確実なミートを可能にしたラック&ピニオン式クラッチ

T ZR250のニューエンジンは、250cc専用設計されたものです。

パワーユニットとしてはかなりでなくマシンの全体構成の中でエンジンをとらえ、開発されているのが特徴で、RZ250RRに比べ7kg（乾燥重量）もの軽量化を果たすとともに、前後の長さも82mmも短縮しています。その結果、前後の重量配分がイブンとなる理想的な位置へのエンジン・マウントが可能となり、低重心化とあわせて操安性を大きく向上させています。

250RRに比べ約40%もの軽量化を果たしています。そしてこの軽量フレームが、12.6kgという軽い乾燥重量の実現に大きく貢献しているのです。

フロントフォークは、750ccクラスと同一サイズのφ39大径インナーチューブを採用。86TZ250と同等の高剛性を備えてすぐれた乗り心地と制動時の挙動安定性を確保しています。また減衰特性もTZと同じ比例型として理想的な路面追随性を発揮します。

さらに、リヤのモノクロスサスペンションも、リヤアームを750ccクラスのサイズを持つ角型アルミ製として、高剛性化と軽量化をはかっています。



■TZR250仕様諸元

【寸法・重量】

●全長2005mm ●全幅660mm ●全高1135mm ●シート高760mm ●軸間距離1375mm ●最低地上高135mm ●乾燥重量126kg

【性能】

●舗装平坦路燃費43km/ℓ (50km/h) ●最小回転半径2.7m ●制動停止距離13.5m (50km/h)

【エンジン】

●水冷・2サイクル・クランク室リードバルブ・並列2気筒・249cc ●内径×行程56.4×50mm ●最高出力45PS/9500rpm ●最大トルク3.5kg-m/9000rpm ●始動方式キック ●潤滑方式ヤマハオートループ ●オイルタンク容量1.4ℓ

【燃料装置】

●エレメント湿式ウレタンフォーム ●燃料タンク容量16ℓ ●キャブレターTM28S

【電気装置】

●点火方式CDI マグネット点火 ●点火プラグBR8ES、BR9ES ●バッテリー容量12V4Ah ●バッテリー型式GM4A-3B

【伝動装置】

●1次減速(比)ギヤ(2.545) ●2次減速(比)チェーン(2.928) ●クラッチ湿式多板 ●変速

機リターン式6段 ●変速比①32/13=2.461②28/16=1.750③25/19=1.315④26/24=1.083⑤25/26=0.961⑥23/27=0.851

【フレーム形式】

●アルミデルタボックス・セミダブルクレードル

【走行装置】

●キャスト26" ●トレール96mm ●タイヤ(前)100/80-17 52H(後)120/80-17 61H

【制動装置】

●ブレーキ油圧式ディスク(前後とも) ●ディスク有効径(前)283mm(後)173mm

【懸架緩衝装置】

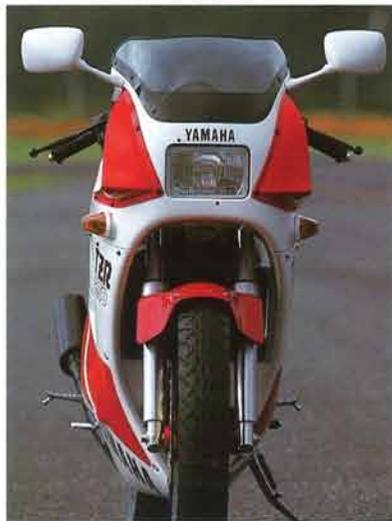
●懸架方法(前)テレスコピック(後)スイングアーム ●緩衝装置(前)オイルダンパー+コイルスプリング(後)ガス+オイルダンパー+コイルスプリング ●ホイールトラベル(前)140mm(後)100mm

【灯火・照明】

●ヘッドランプ12V 60W/55W(ハロゲン) ●マーカーランプ12V 3.4W ●ストップランプ/テールランプ12V 21W/5W ●フラッシャーランプ12V 21W ●メータ照明および各種パイロットランプ12V 3.4W



YZR500と同サイズの320mm大径ディスクをフローティングマウントしたフロントブレーキ



見やすいホワイトパネルのタコメーターをセンターに、レーシングムードあふれるシンプルな3連メーター

パワーアップと同じ意味を持つ空力特性の向上。TZR250のCdA値はこのクラス世界最小の0.268

より速く、安全に。走る、曲がる、止まる。を追求した『TZR250』を象徴するのが、YZR500と同じ320mmの大径ディスクを装備したフロントブレーキです。しかもキャリパーは対向ピストン型4ポットタイプで、その強烈な走行性能にふさわしい強力なストッピングパワーを発揮します。

さらに、大径ディスクはYZR同様にアルミブラケットにフローティングマウント。これによりハードなブレーキングで熱変形が生じてもディスクはパッドに対してつねに適正な位置が保たれ、すぐれたブレーキフィードバックをもたらしています。またリヤブレーキには、対向ピストン2ポットキャリパー装備の210

ホイールとタイヤは、前後ともヤマハ独自の17インチに設定。シャープなハンドリング性能と安定した走行性を両立させています。しかもニューデザインの3本スポーク・アルミキャストホイールは、スポーク部を中空として軽量化し、バネ下重量を軽減させています。

- 12** V 60W/55W
ハロゲンヘッドランプ
- アルミ製**
フロントレスト
- エ** アブレーションタイプキャップ装備の16ℓ容量フェユエルタンク。
- 51** 度のゆとりある
バンク角。
- エ** アブレーションタイプキャップ装備の16ℓ容量フェユエルタンク。
- 7** 60mmの低シート高とスリムなシート幅、サイドカバーまわり、ニードルアップまわりによって足つき性も良好。
- またこの低シートを中心に、低くセットしたセパレートハンドルとバックステップが作り出すライディング・ポジションは、マン・マシンの一体感を高め、レーシーな感覚を一段と向上させたものです。**
- エ** アロタイプ
ミラー
- セ** ンター・タコメーター配置の見やすい3連メーター。

7 60mmの低シート高とスリムなシート幅、サイドカバーまわり、ニードルアップまわりによって足つき性も良好。またこの低シートを中心に、低くセットしたセパレートハンドルとバックステップが作り出すライディング・ポジションは、マン・マシンの一体感を高め、レーシーな感覚を一段と向上させたものです。

新 開発のフルフェアリングは、前面投影面積をRRよりも約10%縮小。この結果、世界最小のCdA値10・268を実現してすぐれた空力特性を発揮、走行安定性や燃費の向上に効果を上げています。

また、このフルフェアリングはフレームマウントながら左右35度の大きなハンドル切れ角を確保。さらに、右アンダーカウルはヒンジによって大きく開けることができ、整備性もきわめて高くなっています。

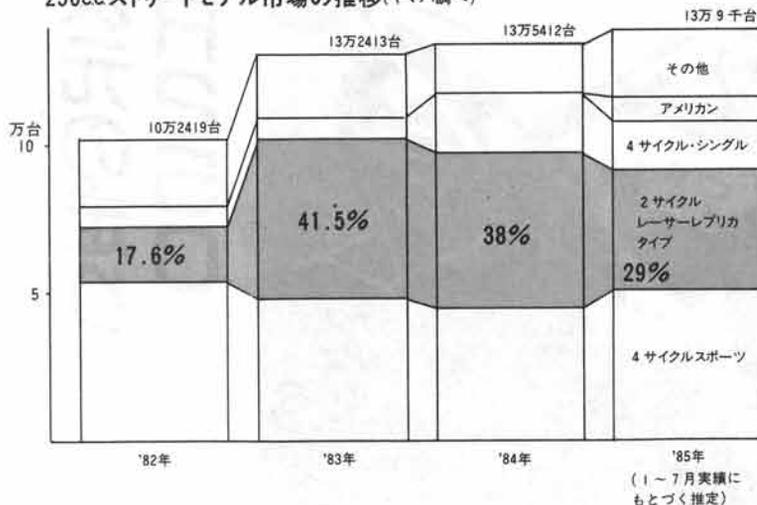
mmディスクを採用。



250cc市場を一気に活性化する TZR250が2サイクル!

カラーページにご紹介した「TZR250」のテクニカル・フィーチャーのかずかず、十分にご理解いただけましたでしょうか。しかし、こうしたもりだくさんのセールスポイントにも増してお客さまにしっかりとお伝えいたしたいのが、以下にご説明する「TZR250」の開発コンセプトです。

250ccストリートモデル市場の推移(ヤマハ調べ)



まずは復習の意味で、'85年のスポーツバイク市場の動向を整理しておきましょう。4月の自賠責保険料の大幅アップ、道交法の一部改正による9月からのピギナーの2人乗りの禁止など、さまざまなできごとがあったにもかかわらず'85年のスポーツバイク市場は堅調に推移してきました。400cc・中型二輪、750cc・大型二輪の両クラスが復調の兆しを見せ始めた中で最も大きなウェイトを占める250ccクラスも確実に前年を上まわる実績が予測されているのです。

'86年もスポーツバイクの最重点市場となる250ccクラス。

ご承知のとおり、このクラスの中心は'80年の「RZ250」の登場によって形成された2サイクル・レーサーレプリカです。'83年には全体の40%以上を占めるまでに成長し、今年'85年は「FZ250フェーザー」

の登場による4サイクルスポーツ人気によってその比率を下けているとはいえず、依然として250cc全体の3分の1近い需要を集め、根強い人気を継続させているのです。

こうした250cc、レーサーレブリカの中にあつて今なお最高の販売実績を誇つているのが、R/Rと揃つた「RZ250」。つまり2サイクルの「老舗」ヤマハの動向が、そのまま市場の盛衰を左右するのがこのクラスであり、それだけに「TZR250」の登場は、この250cc・2サイクル市場を一気に活性化するものとして期待を集めているのです。

RZがベストセラーを 続ける中へ

では、2サイクルのヤマハの伝統を守りつづける「RZ250」のどんなところに、どんな人たちの支持が集まっているのでしょうか。

ご承知のとおり、2サイクルならではの持ち味を徹底的に追求した「RZ250」は、かずかずの神話を生み出しながら83年にY.P.V.S搭載・43馬力の「R」へ、さらに翌84年には45馬力の「RR」へと、着実な進化を遂げ、その間強力なライバルの相つぐ登場にもかかわらずつねにこのクラスのリーダーの座を守りつづけてきました。

これは、スパルタンな走り、シンプルな構成、乗りやすさ、そして買いやすさなど、2サイクルのメリットをフルに活かした「RZ250」の持ち味が、本物を見極める確かな選択眼を備えた多くの人びとにしつかりと評価されているからに他なりません。「RZ250」の信頼性とコストパフォーマンスへの支持です。

そして、そんなお客さまの大きな支持によつて86年、デビュー以来丸6年目を迎える「RZ250」は、2サイクル・クォーターとして初の。販売台数・10万台突破を達成しようとしているのです。

レーサーレブリカとは異次元の走り YZRファイリング、YZR250

さて、こうした中に衝撃的なデビューを果たした「TZR250」。それは、ライダーにとつて夢のマシン、グランプリレーサー「YZR500」のファイリング、乗り味を多くのユーザーに味わって欲しい——というコンセプトのもとに開発したニューモデル。まさに、最高を求めるエンスージヤストのための1台といえるでしょう。

それだけに、この「TZR250」は、スタイルだけ、あるいは速さだけのレーサーレブリカとはまったく異次元のテイスト、これまでの「レーサーレブリカ」という言葉では決して集約することのできない数多くの特徴を備えています。

勝利の2文字に向かって、コンマ1秒でも速く走るために、走る、曲がる、止まる。モーターサイクルの基本機能を極限まで追究しつづけるファクトリーマシン・YZR。それはともすれば、パワーだけを追究したきわめてビークリーなエンジン、特殊な能力を備えたほんの一握りのライダーにしかコントロールすることのできない過敏な操作性などを持った「特殊なマシン」と考えられがちですが、決してそうではないのです。

走る機能よりも前にライダーの感性が重視され、安全性が優先される。その結果、2サイクル特有の強烈な加速感やレスポンスを備えながら、なおかつ幅広いパワーバンドの扱いやすいエンジン特性、安定性と俊敏性を高次元でバランスさせた車体が生ま出す最高の操安性、そして高い制動力と安定したファイリングを発揮するブレーキ……を備えたものとなっているのです。

こうした「YZR500」のテイストをそのまま再現した「TZR250」。ライダーのスポットワークにリアルタイムで確実



FIIIマシンへの変身も容易なTZR250

に反応するパワフルなエンジン、かつてなく安定したコーナリングを楽しませてくれる高剛性の車体……それらがいかに、レーサーと同じエンジン形態にチャンバーマフ

ラー、レーサーシートにフルカウルなどスライディング本位でまとめあげた「レーサーレブリカ」と異なるものか、この点とくにお客さまにご説明いただきたいところです。

'86 YZR500と同時に YZRレーサーグループが開発を担当

グランプリレーサーの走りの真髄を注ぎ込んだ「TZR250」。その商品づくりのポイントを整理すると、つぎの7項目を挙

げることができます。

1・中身もカタチも、さらにグランプリマシンに近づいたクルマづくり。

実感！YZRファイアーリング

専門誌テストライダー氏のTZR2500インプレッション

それでは実際に「TZR2500」に再現されたYZRファイアーリングとは、ライダーにどんな印象を与えるものでしょう。10月4日、ヤマハコースで行なわれた2輪専門誌試乗会で、お2人にうかがいました。

まずは、実際にYZR500の試乗経験を持つ「ライダースクラブ」の根本編集長。そしてTZR2500、TZR500で今シーズンのロードレースで大活躍したスーパーノビーヌ・町井邦生選手です。

人間がいかにか安心して気持ちよく 走れるか——基本はGPマシンも スーパースポーツも同じ

根本健さん（月刊「ライダースクラブ」編集長）

まず、試乗されたの第一印象から聞かせていただけますか。

「250ccとしては十分なパワーを持ち、8千、9千、1万回転と直線的な吹きあがりがとても気持ちいい。それに市販車とは思えない高いフレーム剛性を備えていることに驚かされますね」

「YZRの乗り味」というのは実際に感じとっていただけましたか。

「開発プロジェクトリーダーのお話しにもありましたが、確かにこのマシンにはYZR500のフィーリングが再現されている。YZR500とひと言で言ってもいろいろな年式がある訳ですが、このTZR2500はとくに'83年型YZR、'84年型YZRの流れをそのまま受け継いでいるようです」

「具体的にはどこが？」

「何がYZR的なのかということですね。簡単に言えば、人間がいかにか安心して気持ちよく走れるか——というテーマをマシン開発の方向性の基本に置いているということです。この最も基本的なところは、実はレーサーもスーパースポーツも同じなんです」

「いやここが一番難しいところなんです。操安性を例にとってみるとこうです。マシンというのは、浅いバンクなら浅いバンクなりに曲がっていく。深いバンクな



「いやここが一番難しいところなんです。操安性を例にとってみるとこうです。マシンというのは、浅いバンクなら浅いバンクなりに曲がっていく。深いバンクな



ヤマハライダー以外でYZR500の乗車経験を持つのは、おそらく私だけでは……という根本編集長。そのインプレッションはさすが！

ら深いバンクなりに曲っていく。もちろんバンクが深くなるほど旋回力は高くなっていきますね。こうした基本をふまえながらマシンを作るといことは大変難しいことなんです。

実は、レーサー開発の歴史の中でも、この基本からはずれてしまったマシンもあったんです。フロントタイヤが太くなったり、16インチタイヤが採用されたり、アンチダイブ機構がついたり……こうした様々なデバイスを備えることで操安性を追求しようとした時期があった。

ちょうど'80年頃だと思います。こうした傾向は、実は基本からはずれているので……という心配がヤマハにはあったと思うんです。

そこで本当に基本に戻ったレーサー開発にヤマハが取り組む訳ですが、その出発点となったのが'83年型（ケネー最後のシリーズ）なんです。

——TZR250には、その「基本」が買われている訳ですね。

「確かにそうですが、単なる「基本」だけではないんです。'83年型が基本だとすれば、ローソンがワールドチャンピオンを獲った'84年型はこれに人間の感性をプラスしたもののなんです。つまり、いくらレーサーが優れていてもソフトウェア＝人間がうまくコントロールできないければレースで勝つことは出来ないということなんです。

この'83年から'84年へ移っていった流れと同じようなものが、このTZR250にはあるんです。

——人間の感性がプラスされていった、というの、試乗ではどのように感じとれる訳ですか？

「コーナリングの途中でだんだん限界に近づいていくのが解かるのもそうです。ギャップを吸収するときもマシンの方でそれを吸い取るのではなく、ある程度ハンドルの振られたり、ある程度ライダーの足や尻に路面の状況が伝わってくれたりするの

もそうです。

隣の人に声をかけるとき、ちょっととよつと」といって肩をポンポンとたたたくでしょう。それと同じような感じで路面状況をマシンがライダーに教えてくれるんです。

乗っているとマシンと自分が一緒にいるという感覚をつかむことができるマシンです。だから乗りながらモーターサイクルの

たしかに、これは異次元のモデルだ！

町井邦生さん（『ミスター・バイク』テストライダー）

——たしか、ヤマハコースを走るのは今回が初めてですね。

「そうです。初めてのコースで初めてのTZR250の試乗だったんですが、とても気持ち良く走れました」

——ズバリ印象は？

「従来の市販車に較べると、はつきり言うて次元の違うバイクですね。

エンジン特性は、デチューンしたTZZやマイルドにした感じ。乗り味の方は'85年型のTZ250と良く似ているんです。

——全体的イメージとしては、TZとRZのちょうど真ん中にある感じですね」

——一番気に入った点はどこですか？

「車体まわりの剛性がとてもしっかりしているの、パワーバンドを使って攻めたときにとても安心していられるということですね」

——もう少し具体的には？

「フロントまわりの剛性が特にいい。ハードに攻めるとフロントがバタつく……といったこれまでの市販車に見られた動きは、このTZR250ではまったく感じられませんが、それに制動時の安定性が抜群です。急制動時にはフロントは沈み込む訳ですが、そ

基礎を学ぶことができる。しかも、ヒラヒラ……パタンなんていうこともありませんから初心者に乗っても全く問題はありませ

——最後に根本さん流にTZR250をひと言で語っていただけますか？

「モーターサイクルを愛している人なら、誰が乗っても楽しめるバイク——ですね」

の反動でリヤが浮き気味になって不安定になることがないんです。

コーナリング途中でのブレーキングでも、直進走行時と同様の安定性をもっている。だからライダーの姿勢変化も起こらない。

——ギャップ通過時も、マシンの挙動のおさまりが素早く安定しています。だからパワーを思い切って使えるし、もつともつとアクセルを開けたくなるんです」

——では、そのパワーの方のお話を聞かせていただけますか？

「トルクカーブでいくと、TZR250はTZ250に非常に良く似ている。それにパワーバンド付近での吹きあがり感もTZZ的で強烈ですね。

しかも一度パワーバンドに入れておくと、アクセルの開度に応じてタイムラグなしで

9月の日本GPロードレースでは、RZ250を駆ってF3クラス（1ピストン）に優勝の町井選手。TZ250でノーピストンクラスでも今年活躍した彼だけに、RZ、TZ、TZRを比べて大いに納得



パワーが出てくる。開けた分だけ前に進んでくれるんです」

——一気に加速してくれる訳ですね。

「そう。180km/h付近まで一気に加速します。また、この付近ではフェアリング効果も抜群ですね」

——フォーミュラ3のベースマシンとしての実力のほどは？

「フォーミュラ3仕様になれば、下手なTZを負かしてしまうんでは……（笑）」

——では、町井さんにとつて、TZR250をひと言で語るとすれば……

「そうですね。現在のRZが、YPPVS付きのRZ-Rとしてモデルチェンジした時があったでしょう。あの時以上のショックを受けるマシン——というところです。本当に走り追求するユーザーには、たまたらないモデルでしょう、きっと」



以上「TZR250」のすばらしい商品性をさまざまな角度から紹介してきましたが、それではこの時期、「TZR250」の新発売を、もりあげる販促企画としてどんなものが効果的か、考えてみましょう。

TZR250

新発売セール、ヒント集

1 東京モーターショーの興奮をそのまま店頭再現して、ホットPOPを誘店しよう!

「TZR250」は、11月1日から開幕する第26回東京モーターショーでの発表と同時に新発売です。

みなさまの店頭もさることながら、より多くのお客さまが「TZR250」の実車を見て、触られる最初のチャンスはこの東京モーターショーのヤマハコーナーとなるでしょう。今回も二輪車館ナンバーワンのお話を呼ぶヤマハコーナー、そしてその中心となってお客さまの人気を独占しよう、噂の「TZR250」。

それだけに、このもり上がりをお逃さないタイムリーな新発売セールの展開こそ「TZR250」市場導入成功の力にもいえるでしょう。

まずは、お店のショールームの最高の場所に「TZR250」を展示して、お客さまの来店を促進しましょう。展示にはもちろん、ヘルメットやレザーグッズなどの用品・アクセサリー類からさまざま

まなレーシング・グッズまでをあしらって、100%のイメージアップをはかりたいもの。

ご承知のとおり、このクラスのヤングユーザーは、バイクばかりでなく用品やアクセサリーにもそれなりの予算を費すお客さまたちなのでありますから……。

3 プロモーションVTRを使ったセールストークや店頭試乗会で、見て、触れて、乗っていただく

さて、DM作戦で触発され、来店した「TZR250」の有力見込客の人たちを、より確実に実売に結びつける企画もしっかりと用意しておかなければなりません。

その第1は、「TZR250」のすぐれた商品性や走行フィーリングを正確にお客さまに伝えるセールストークの展開です。

お店のみなさまのこうしたセールス活動をサポートするために、ヤマハでは「TZR250プロモーションVTR」を用意しました。ヤマハのレースの歴史をふり返り、その中で生まれた「TZR250」を訴えかけるとともに、平忠彦選手の走行シーン、専門誌テストライ

ダーの試乗感などを盛り込んだこのプロモーションVTRも、どうぞ存分に活用ください。

そして、さらに強力なセールス活動が「TZR250」のデモカーを使用した店頭試乗会の開催です。もちろん公道ですから「TZR250」の持ち味を100%ご理解いただくことは不可能ですが、シャープなレスポンスやひととき複雑な操作性などYZRFフィーリングの一端はきつとつかみとっていただけることでしょう。と同時に「TZR250」の購すみに行き届いた、ヤマハラしさあふれるハートのあるつくり込みもきつとご理解いただけることでしょう。

どうぞ活用ください！ TZR250新発売ツール

みなさまのお店での「TZR 250」新発売セールにご活用いただくために、ヤマハではご覧のようなツール類を用意いたしました。どうぞ活用ください。

TZR250新発売ノボリ、ステッカー（同デザイン）

SPRIT OF COMPETITION
TZR250 new
YAMAHA





2

対象を絞り込んだDM作戦で

お客さまの来店を促進!

東京モーターショーでもりあがった「TZNRUNO」の話題。とはいえ、冬場のお客さまの来店を促すにはそれなりの工夫も欠かすことはできません。

その手始めとして、まずは「TZNRUNO」のターゲットと目されるお客さまに、来店促進のDM作戦を展開してみませんか?

ターゲットの筆頭はもちろん、

RUNOやR1Rでスバルタンな2サイクルの走りをエンジョイしているお客さまたちでしょう。しかし、その他にも4サイクル・クォータースポーツでようやく走りの楽しさを発見したような人たちから、流行に敏感なファッション感覚いっぱいの子ティボーイまで、その対象は想像以上に幅広いはずです。

4

購入意欲を高めているお客さまへの最高のプレゼントはサーキット試乗会

さて、「TZNRUNO」の購入意欲を毎日に高めて行くお客さまにとって最高のプレゼントとなるの

は、サーキットでの「TZNRUNO」試乗会です。

お店のスポーツクラブの活動としてサーキット走行会や自動車学校を貸り切ったのミニYRSなどをご計画のお店では、ぜひこうしたイベントに「TZNRUNO」の試乗会を組み合わせてみてはいかがでしょうか。サーキットを走る「TZNRUNO」、それは文字通り水を得た魚のようにいきいきと、その真価をお客さまに発揮するでしょう。

5

FⅢレース志向のお客さまにはロードレース入門のサポートも

「TZNRUNO」に関心を寄せるお客さまの中には、ごくわずかな改造で出場できるプロダクション・ロードレース、FⅢクラスへの出場を考えている方も多いことでしょう。

そんなお客さまに対しては、マシンへの準備、ライセンスの取得、サーキットでのスポーツ走行そして実際のレースへのエントリー……まで一連のレース活動をサポートしてあげることも大切な作業です。このオフシーズンの間に、来シーズンの準備を、とお考えのお客さまも多いことでしょう。そんなお客さまへのフォローも忘れずに展開ください。



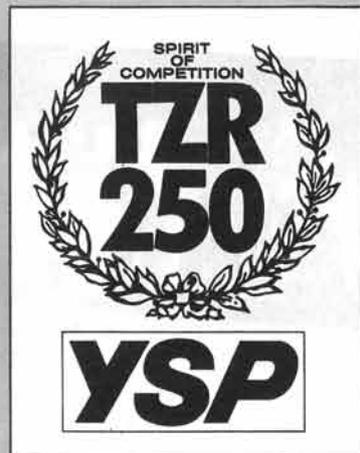
フロアスタンド



展示車用月桂冠



ポートレイト&封筒



YSPノボリ

愛車と一緒に飛行機でツーリング

Y.E.S.S.の企画によるジェット・ツーリングプラン

『JALバイクビレッジ・イン・北海道』開催!

飛行機に自分のバイクを積んで北海道までひとつ飛び、そして千歳空港からは広大な原野を気ままにツーリングして、帰りは再び千歳空港から最寄りの空港までバイクとともに戻ってくるというビッグなジェット・ツーリング。

これは、バイクの世界を広げるY.E.S.S.と日本航空が共同開発した“ジェット・ツーリングプラン”ですが、このほどその第1弾として『JALバイクビレッジ・イン・北海道』を開催し、ツーリングファンのお客さまの間で大きな反響を呼びました。

秋風も爽やかな9月19日(木)から22日(日)までの4日間にわたって開催されたこの企画は、東京・羽田をはじめ大

阪、福岡の3空港を出発地として行なわれたものですが、東京から50台、大阪から9台、福岡から4台の計63台が参加。千歳空港に着くと同時にそれぞれの目的地をめざして北海道ツーリングに出発、短期間にして壮大なツーリングを楽しんだものです。

なお、Y.E.S.S.事務局では、「この成功をもとに今後はもっとバリエーションを増やして、ジェット・ツーリングをスポーツバイクの拡販政策として煮つめていきたい!」と積極的に取組む方針を出しており、一方の日本航空も「これほどまでバイクユーザーに反響があるとは思わなかった。すでにジェットツーリングを商品化する体制はできているので、積極的に具体化していきたい!」と早くも次への企画に意欲を燃やしていました。

バイクは1台ずつ固定され、1枚の
パレットに4台ずつ搭載される



ジャンボ機のお腹から出てきたバイク。1機には5枚のパレットが入り、合計20台のバイクが積み込み可能



1日目と2日目の宿泊が用意された占冠(しむかっぶ)のリゾートホテル・アルファトマム前で記念撮影

最後の夜は北海道ヤマハ主催の『バイクビレッジ・イン・ポテト共和国』に合流。ニセコのペンション村で500名の北海道のバイク仲間と一大屋外パーティを楽しんだ



オンロードバイクの参加者は、完成したの北海道スピードパークのサーキットランも体験した

北海道ヤマハが主催した「バイク・ビレッジ・イン・ポテト共和国」には、平忠彦をはじめ河崎裕之、光安鉄美らヤマハラライダーも参加。サイン会には長蛇の列ができた



もう1度行きたい!

オートショップ松元 (鹿児島市)
松元実博社長

「私を含め3名で参加したんです。1名は39歳の主婦で400ccのユーザーの方。前日に鹿児島から福岡まで300kmのツーリングを楽しんで19日に福岡を出発。千歳からは網走、知床、根室、日高、富良野、ニセコ……と北海道の南半分を走破。走行距離は鹿児島から福岡までも含めて2,200kmに及びました。」

なにしろ今回は話が急だったものですから結局は3名にとどまりましたが、まだ5-6名は行きたいというお客さんがいるので、次回の企画に期待しています。今回、参加したお客さんも今度は残りの北半分を走破と言っていますし、今はもうその話題ばかりです」

なんと11名も参加!

オートスポーツショップ
イトモータース (愛知県津島市)
伊藤憲尚社長

「この夏、お客さんの間で北海道ツーリングを計画していた時にこの話を聞いたので、こっちにぞっくり乗っちゃったんです。で、9台のバイクに11名(タンデム2台)が参加し、うちの従業員も含めて慰安旅行になったというわけです。」

最初は千歳についたらバラバラに走ろうと話していたんですけど、結局は最後の最後まで同じルートを走り、和やかな雰囲気です。フルにツーリングを楽しんだというわけ。支笏湖から始まって日高、帯広、十勝、然別、層雲峡、富良野、札幌、小樽、定山溪……と走り、1,200kmを走破。」

帰ってからは、今回行けなかったお客さんをなだめるのに一苦労。早く次の企画を考えてください」



オフロードバイクの参加者は光安鉄美選手率いる早期林道ツーリングにもチャレンジ



もうお済みですか？

'86 Y.E.S.S. スタッフ更新手続き

Y.E.S.S.加盟店さまの'86年度更新手続きは、おかげさまでスムーズに進行。10月30日までに更新手続きをされました販売店さまについては、ただちに事務処理を行ない'86年度ショップ会員としての登録を終了させていただきました。

そこで今回は、先月も簡単に説明しましたY.E.S.S.スタッフの'86年度更新手続きと新規加盟手続きについて、再度ご説明させていただきます。全国のY.E.S.S.ショップの皆さまは、ぜひともこの期間に'86 Y.E.S.S.スタッフの更新と新しいお客さまへの'86 Y.E.S.S.スタッフ化をおすすめください。



問われるY.E.S.S.活動への積極的な取り組み

今年1年間のY.E.S.S.活動を通じてご理解いただけたことと思いますが、いまやスポーツバイクの拡販にとって“遊びの提供”をはじめ、“完璧な顧客管理”や“サービス力の充実”等は必要不可欠なものとなっています。

そういう意味からも、'86年度はさらに皆さまのお店のご商売の中にスポーツバイクの拡販とモータースポーツの普及をめざしたY.E.S.S.活動を積極的に取り入れ、スポーツバイクのお客さまに対して魅力あふれるお店づくりを展開していくことが、なによりも求められているといえるでしょう。

まずは確実な'85スタッフの更新手続きから

'86 Y.E.S.S.活動への準備として、まず取り組んでいただきたい作業は'85 Y.E.S.S.スタッフの'86年度更新手続きです。前号でもご案内のとおり、この手続きは11月1日から11月末日までの1ヵ月間に行なわれるもので、店別スタッフ一覧の電算リストでチェックする方法がとられています。

具体的には、リストにもとづいて'85スタッフに対し更新アプローチを展開し、更新の確認を行なうとともに、スタッフデータの再チェック（未記入項目の記入や住所・氏名のフリガナ追加、さらに住所変更等のチェック）をします。そして、更新スタッフから年会費(¥1,000)を受取り、リストとともに営業所へ提出するという手続きがとられるものです。

更新スタッフに対してはプレミアムも用意

'85 Y.E.S.S.活動としては、サマーフェスティバルやバイクビレッジ等、数多くのイベントが開催されました。また、皆さま方のお力により予想以上に多くのY.E.S.S.スタッフを動員することができました。

しかし、スタッフのニーズがあまりに多岐にわたり、またイベント内容等にも格差があったために、一部のスタッフにおいては十分に満足できなかった点も事実です。したがって更新アプローチを展開するにあたっては、十分にこうした背景をふまえてスタッフへの取組みを行ない、'86 Y.E.S.S.スタッフ加入をおすすめください。

なお、更新スタッフに対しては新規スタッフとの差別化を図る

ために特別にプレミアムとしてニューデザインのY.E.S.S.オリジナルワッペンも用意いたしました。また、スタッフ番号についても'86年度と同一の番号を使用するかたちをとり、よりY.E.S.S.に対する親しみを増幅させる特別な配慮も行なっています。みなさまのお店でもぜひこの点を強調され、スムーズに更新手続きを済まされるようお願いいたします。（原則として、更新は'85スタッフ登録したお店で手続きをした場合に限りです）

新規加入のスタッフに対しても特典がいっぱい

一方、これまでY.E.S.S.に加入されていなかったお客さまに対しての、'86 Y.E.S.S.スタッフ新規募集活動もすでにスタートしていますので、ここにあらためてご案内いたします。

'86 Y.E.S.S.スタッフの実質的な活動は、'86年1月1日から行なわれるものですが、早くもこの秋からY.E.S.S.スタッフとしての活動を希望されるお客さまに対して、以下の特例を設けましたので、募集活動の展開に当ってはこの点を必ずお含みおきください。

＜'86スタッフの新規加入における特例＞

- 対象／本年12月20日までに'86スタッフとして新規申込みされたスタッフに限る。
- 内容／'85スタッフの特典の中の提携施設の利用およびイベント参加における割引特典が与えられる。（但し、カードの発行、機関誌の発送は行なわれず、交通事故傷害保険の適用も'86年1月1日から）

お客さまと一緒に新しいバイクの世界を築こう

健全なスポーツバイク市場の拡大をめざし、販売店の皆さまとお客さまとヤマハとが丸となって築きあげたY.E.S.S.。'86年度はさらに大きな目標に向かってあらゆる活動にチャレンジをしていきたいと考えています。

具体的には、魅力あふれる遊び場の開発やスポーツバイク拡販と結びついた活動展開、さらにインストラクター体制の充実などを通してY.E.S.S.ショップへの側面援助などがあげられますが、皆さまのお店でもさらにY.E.S.S.活動を軸としたご商売の展開をお図りいただき、スタッフとなったお客さまと一緒に新しいバイクの世界をお築きください。

※詳しくは、担当セールスもしくは最寄りの営業所のS Lマンまでお問合せください。

YAMAHA RACING SPIRIT

証言で綴るヤマハ挑戦の記録

シリーズ8

ロードレース新時代を 拓いた2人の巨人 ケニー・ロバーツ、高井幾次郎

バトンはリトルルジジャンアント、 高井幾次郎へ！

70年代に入ってヤマハのロードレース部門は、本橋明泰、三室恵義、河崎裕之らの精鋭に新たに金谷秀夫選手を迎えて一段と戦力を強化する。

またヤマハは、これと並行してヤマハSL

クラブを発足し、モータースポーツ普及活動を精力的に展開。レースへのあくなき追求と企業の社会性の遂行の両面で、新たな動きを開始していた。そんな中に、71年ヤマハのテストライダーとして加わってきたのが、70年

代中盤以降の主役となつたいまは亡き高井幾次郎選手である。

「イク（故高井幾次郎氏）と当時の溝口監督のやりとりといったら、それはもう火花が飛び散るほどでした。限界で走るイクが何周かしてピットに戻ってくる。するとガソリンタンクの中を見て、『まだあるから行け』と溝口監督。その繰り返しばかりで、イクはそうして徹底的にプロ根性を叩き込まれたのでしよう。彼の成長はそのあとからだったと思います」

良き先輩として彼を暖かく見守っていた金谷秀夫氏（現・ライダーズハーバークアナ社長）はその時のことを鮮明に思い出す。

71年にヤマハの完成検査部門のテストライダーとなり、74年にはいよいよワークスライダーとなった高井選手。溝口監督のシゴキは高井選手の才能を信じてこそのものであった。方法がどうであれ、一流の選手を育てるといふポリシーは、ヤマハ創立期から一貫して流れていた伝統でもあるのだ。

「ワークスの先進技術を翌年には必ず市販車にフィードバックするというヤマハの基本姿勢は、やはり創立以来変わっていない。つまり、ヤマハのレーシングスピリットには人を育て、マシンを進化させるという2本の筋がしっかりと通っていて、それは今でも変わっていないということですよ」

と金谷氏は力を込めて語る。

常にレースには勝たなければならぬという重い使命を担いながら、ライダーとマシンが成長するうえで避けて通れない関門がある。それはライダーが時とともに移り変わるということだ。そうした中で、常に最高のライダー、最高のマシンを擁しつづけることは決して容易なことではない。

しかし伊藤史朗↓長谷川弘↓本橋明泰↓金谷秀夫と受けつがれてきたヤマハ・ロードレースの伝統は、70年代後半高井幾次郎へと手渡されたのだ。もちろん、本橋、河崎、金谷らの選手もコンマ1秒の闘いに生きる男たちでありつづけたら……。



78年から3年連続で世界チャンピオンに輝いた頃のケニーの走り。天賦の才もさることながら、ケニーはまた無類の研究家でもあった。マシンに負担をかけずにポテンシャルを100%引出す走り、彼の右に出るものはいない

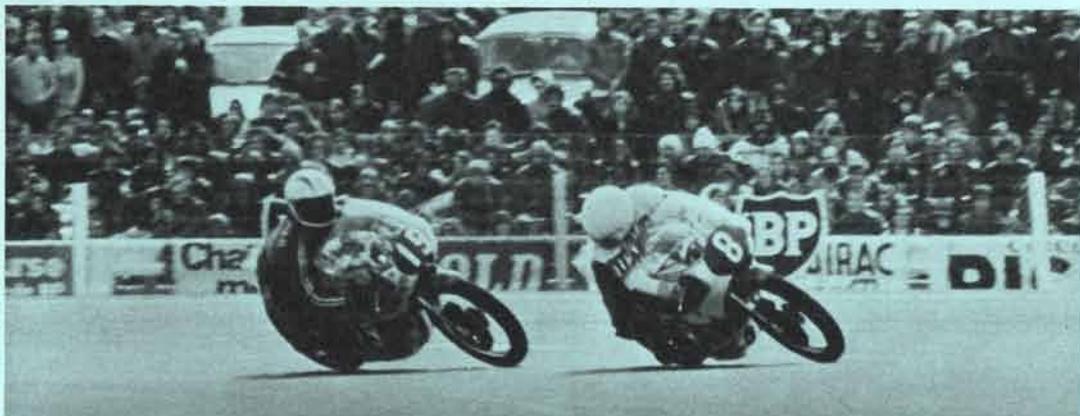


160cmたらずの小柄な身体でYZR750、YZR500というビッグマシンを自在に操った高井。"リトル・ジャイアント"の愛称がまさにピッタリの走りだ



表彰台に並ぶ金谷(左)、高井(中央)のYZRコンビ。立っている位置こそ変われ70年代後半から'80年代初頭の国内レスでは何度も繰りかえされたおなじみのシーンだ

'74年の全日本選手で無敵の4連勝でチャンピオンを決定した高井は、'75年に初の世界GP挑戦。初レースのフランスGP・ポールリカールでチームメイトのJ・チェコットと大接戦を演じた。写真は最終ラップの最終コーナー。結局この後チェコットが抜き去り高井は2位となった



「それまでYZRのパワーバンドは9500回転からだったけれど、YPVSが付いてからは7500回転でもマシンがグングン前へ進んでしまっ、本当にビックリしました。楽にタイムが縮められるわけです」

「75年、まずはサスペンションで戦闘能力を上げたヤマハロードレーサーは、アゴスチーニによって500ccクラスのチャンピオン(ライター&メーカー)を決め、350ccクラスで

「75年のことである。'72、'73、'74年とティナで勝ち続けていたヤマハはこの年、1位(G・ロメロ)から6位までを独占。それまでのTZを全面改良し、フルスケールの750ccにしたTZ750だったが、足まわりの進化により、フォーミュラ750クラスでは不動の地位を築き上げることになる。」

一方、現在の2サイクルエンジンの画期的なメカニズムとして評価されているYPVSも、ちょうどこのころから排気特性研究が開始される。'75年にはYPVSの原型ができ、'75年後半には早くもモトクロッサーYZM125に搭載される。ロードレース部門では'77年からYZR500に採用。金谷氏はYPVSを採用したYZRに乗った直後の感想を今でもはっきりと記憶しているという。

「他社マシンがストレートで張合ってきてもTZ750がコーナーに入るとスリット前に行ってしまうんです。コーナーですごく安定していたわけです」

「75年には、もうひとつ大きなニュースがあった。スポーツランドSUGOの誕生である。'70年代初頭から積極的にモータースポーツの普及を手掛けてきたヤマハにしてみれば、スポーツランドSUGOの完成はひとつの社会的責任を果たしたといえるほど意義深いものであった。」

「SUGOの完成の時は、ボクとイクの2人はヨーロッパから祝電を送りました」

金谷氏にしてみれば、自分たちが走るべきフィールドがひとつ増えたことであり、とても他人ごとのように思えなかったという。

ところで、高井選手と金谷選手の名コンビには、その時のコンビネーションの良さを裏付けるエピソードが数多く残っている。この

モノクロス・サス、YPVS、相つぐ革新メカの登場

こうした70年代中期のヤマハライダーの充実ぶりに比例して、ロードレーサーにも飛躍的な技術向上の気運が見え始めた。それはモノクロス・サスペンションとヤマハパワーバルブシステム(YPVS)の登場だった。

「75年、まずはサスペンションで戦闘能力を上げたヤマハロードレーサーは、アゴスチーニによって500ccクラスのチャンピオン(ライター&メーカー)を決め、350ccクラスで

一方、国内では金谷選手が日本GPで、当時としては驚異的な鈴鹿サーキットのコースレコード2分16秒2を叩き出して勝ち星をあげる。

「75年には、もうひとつ大きなニュースがあった。スポーツランドSUGOの誕生である。'70年代初頭から積極的にモータースポーツの普及を手掛けてきたヤマハにしてみれば、スポーツランドSUGOの完成はひとつの社会的責任を果たしたといえるほど意義深いものであった。」

「SUGOの完成の時は、ボクとイクの2人はヨーロッパから祝電を送りました」

金谷氏にしてみれば、自分たちが走るべきフィールドがひとつ増えたことであり、とても他人ごとのように思えなかったという。

ところで、高井選手と金谷選手の名コンビには、その時のコンビネーションの良さを裏付けるエピソードが数多く残っている。この

SUGOロードコースを見おろす第1コーナーの高台に設けられた高井幾次郎選手の記念碑の前で、思い出のレースシーンを語りあう金谷秀夫氏(右)と木引繁雄氏



各界専門誌編集長が語る当世若者気質

Magazine & Magazine

Part.11

Fine

編集長みわ幸雄氏



『Fine』(ファイン)

〔発行〕日之出出版株
 〔創刊〕1978年9月発行。隔月刊からスタートし月刊化。毎月1日発行。現在の発行部数は35万部。定価380円。
 〔読者層〕年齢的には、18歳をピークに17~21歳までが70%を占める。男女比は、男28%；女72%。未婚者が98%と圧倒的に多く、職業別では高校生が39%、OL30%、大学生(短大生含む)14%...となっている。
 〔編集方針〕「スポーツを生活の中心においたファッションブルマガジン」の言葉に代表されるとおり、18~20歳の女性をターゲットとして新しい女性の文化を創造していくという意図のもとに編集。

〔編集内容〕ファッション関係の記事が50%を占め、サーフィンを中心とした海のスポーツ記事が25%。残る25%は、クルマ、音楽、街の遊び(ディスコ情報等)など。
 〔編集長プロフィール〕音楽雑誌の編集にフリーでたずさわる中で、日之出出版より女性誌を出したいとの意向を受け、『Fine』の創刊にタッチ。そのまま編集長として迎えられる現在に至る。1945年1月27日生まれ、血液型A B型。

ひと昔前までは、それこそサーフボードを小脇に抱えて浜辺を歩いている女性の姿を見つめることは容易ではありませんでした。しかし、今は誰もがどこの浜辺へ出かけても、コゲ茶色に日焼けしたサーファーギャルと会うことができます。今回は、最も男性的なスポーツであるサーフィンを女性の間にまで普及させた仕掛人ともいえる『Fine』編集長・みわ幸雄氏にお話をうかがいました。

サーフィンに波は必要なかった

創刊から7年目というのですが、当初の狙いといいますとどんなことがあったのでしょうか？

「当時は、雑誌でいえばちょうど『ポパイ』が全盛期でして、アメリカのウエストコーストやハワイの文化がそっくりそのまま輸入されわが国のヤング世代の間で流行し始めた頃だったんですね。だから『Fine』についても、アメリカのウエストコースト的な文化を

個人それぞれが勝手に1人だけの価値感を持つちやいほ『す』

女性に伝える雑誌を作ろうと考えたんです」
 女性とはもかくとして、最初から年齢層は18~20歳の位のところを設定していたわけですか？

「そうですね、人間って20歳を過ぎると決まっちゃるところあるでしょ。落ち着いてしまつて、柔軟性がなくなっちゃうわけね。そんなところを相手にしたつて面白くないでしょう。逆にローティーンを相手にすると、どうしても雑誌が子供向きになってきちゃう。それだけでなく雑誌って、若い読者にどんどん引き下げられちゃう傾向があるわけだから、そんな若い層には下げたくない。そんなところから、ターゲットを18歳から20歳の最も可能性ある年齢層に定めたいんです」

先程、アメリカのウエストコースト的な文化のお話をされましたが、サーフィンを女性誌としてあれほどまでに取り上げたのもそうした意図からですね。

「創刊4号目ですか、サーフィン特集を組んだのは、それが大反響を呼んだんですね。それで、これだ！と、サーフィンを中心にひとつの若い女性の文化というものに取組んだんです」

サーフィンといっても、ただ単に波乗りだけじゃないんですね。音楽やクルマやファッションなど、

いろいろなものが付随しているわけです。それをすべて取り上げて、ひとつの新しい文化を築き上げた。そこが、ちょうど当

時のヤングギャルたちに新鮮に映つたのでしよう、きっと」

とはいえ、それまではサーフィンといえば男性的なもので、女性はそうした男性サーファアの添え花的な存在でしかなかったわけですね。

「それまでのサーフィンっていうと、ハワイだったんですね。5mや10mの大波にチャレンジする最も男性的なスポーツのイメージしかなかった。だから、波の小さい日本では一部の地域でしかはやらなかったんです。でも、ウエストコーストのサーフィンって違うんですね。波なんてないわけですよ。でも若い人たちはサーフィンを楽しんでるわけ。実は彼らは、スポーツとしてのサーフィンというよりは、ファッションとしてのサーフィンを楽しんでいるわけ。そんなサーフィンの新しいイメージがわが国にも輸入され、女性の市民権も認められたんです」

死語になった『自立する女』

「そして7年間、若い女性を相手に雑誌作りを続けられていたわけですが、この間に読者の間で最も変化した現象といえますと、





どんな傾向があげられますか。
 「ひとこと言えば、7年前の女の子のほう
 がもう少し能動的で、新しい見方があった。
 積極的な姿勢がありましたよね。
 たとえ小さな波とはいえ、いままでは男が
 サーフィンをやるのを見ていただけだった人
 達が、自らサーフィンにチャレンジするわけ
 でしょう。その娘にとっては大きな決断があ
 っただろうし、危険への選択もあった。そう
 した壁を乗り越えて生きてきたわけです。い
 ってみればサーフィンが、受動的な生き方か
 ら能動的な生き方へと変えるキッカケを作っ
 てきた。
 ところが、今の女性はどうかというと、全
 く消極的になっちゃった」
 といいますと……。



今度、うちでも「Fine
 ボーイズ版」という雑誌を
 出したんですが、これは全
 編が男性ファッション情報
 誌なんです。いってみれば、
 今は男の子がファッション
 にめざめた時代なんですよ」

今、放っておく時代

ウェストコースト文化も今やパワーがな
 くなっちゃったわけですね。
 「イギリスの解散とともに、ウェストコー
 スト文化は完全に崩壊しましたね。
 今は、しよせん何をやってもパフォーマン
 スの時代でしょ。何から何までパフォーマン
 ス。現象的な新しいことはできるけど、具体
 的なパワーにはなりきれない。それは単に風
 俗でしかないんですよ。」

確かにモノはファッションが先行しないと
 メジャーになりえないというのが私の持論で
 すが、現象として新しいモノを紹介しても別
 にどうってことないんです。若者に影響を与
 える文化を含み持っていない限りは、ね」

女性雑誌を作る上では、ますますコンセ
 プトが立てにくくなってきましたね。
 「そう、かつては誰もが個人の外側に共通の
 価値感を見い出そうとしていた。でも今は、
 個人それぞれが勝手に1人だけの価値感を持
 っているんです。サークルや同好会にして
 も、決して自立した個の集まりではない。何
 か新しいことをやろうという目的があるわけ
 ではなく、面白ければいいノという感じで、
 ワイワイ・ガヤガヤ集まっているわけです。
 ですから、ハッキリ言って今の女性には何
 がインパクトを持つのか、何が受けるのか、
 まったくわかりませんね。だから悪あがきは
 しないことに決めました。笛吹けど踊ら
 ずではなく、笛を吹かれること自体を嫌がっ
 ているわけですから「Fine」はこのまま

性がなくなっちゃったんでね」
 象徴的で、かつ具体的な目標だったサー
 フィンが、いつしか色あせてきちゃったわけ
 ですね。そして他に目標が見つからない。
 「昔だったら、若い女性に『受動的な生き方
 と能動的な生き方と、どちらがいいですか？
 』って聞いたら、まず能動的な生き方がいい
 って答えたでしょうね。
 でも、今は必ずしもそうじゃない。『自立
 する女』や『跳んでる女』なんて、すっかり
 死語になってしまっている。今の女の子は、
 『さすがにいいじゃない？』と答える人達
 が多いように、生き方の価値感も全く違うと
 ころにいつちゃっていますよね」
 実に面白いというか、淋しい……。

「女だけに限ったことではありませんよ、こ
 うした傾向は。男もそう。だから男の子たち
 は化粧に走っていったり、ファッションに走
 っていたりしている。むしろ、これらの分
 野は、男にとっては新しい世界なので、女性
 よりもいまはパワーをもっているほどです。」

しばらく放っておこうと思ってるんです。
 雑誌だってサーフィン同様、時代の波を受け
 て変わっていくものだから、このまましば
 らく流されてみようと考えているんです。
 そのうちきっと変わると思いますよ、プ
 ムだって世界の動きと決して無関係ではない
 のですから。音楽の世界で、アフリカ難民救
 済の「ライブアイド」コンサートが開かれたよ
 うに、いろんな分野でいろんな新しい動きが
 近い将来やってくると思いますね。そして、
 再び若い女性の感性をゆるがす新しい文化が
 生まれてくるんじゃないでしょうか」



情報スクランブル

BOOKS

●探求心の勝利
完全制覇・TY250スコティッシュ

一冊まるごと、TY250・スコティッシュ。だけでまとめたのであるのですが、走り方やメカを解説しただけのハウツーブックではありません。開発ストーリーから、スコティッシュ。が作るライディングの世界まで、文字通りすべてを網ら、生みの親の一人国際A級木村治男選手がつづった「スコティッシュ」へのラブコールなのです。オーナー必携のバイブルとなることはもちろん、オンロードファンのお客さまにトライアルの楽しさを訴求するにも最適な一冊です。

木村治男著 山海堂/¥1200



●実体験ガイドブック
「手つゝのシン・シン・シン」
北へ／南へ



地図だけを見てツーリングプランを練るのもそれなりの楽しさがありますが、いざ走ってみたらさほど面白いコースではなかった、なんてこともよくあります。こんな失敗を防ぎ確実にツーリングを楽しむためには、実際にそのコースを走った人から情報を得るのが一番。このツーリングガイドは神奈川県に本拠を置くツーリングクラブ「SPTC」のツーリング計画をもとに編集されたもので面白プランや即役に立つツーリング情報が満載されています。

サイクル&スポーツ編 山海堂/¥880

MUSIC

●秋風を吹き飛ばせ！
Sweetest Taboo

デビューアルバムからいきなり大反響を呼んだジャズボーカリストの旗手、シャーデーの12インチシングル版です。曲はA面がノリが良くファンキーな仕上がりのラテン・ジャズ・サウンド、B面がムーディーなバラード調と、どちらもちょびり肌身に応えだした北風を吹き飛ばすにはうってつけのホットなできばえです。



EPIC(USA) ¥1280

★WAVE・BEST 5

めまぐるしく変化する当世若者氣質を把握するひとつの基準として、ヤングの間で流行しているサウンドを聞いてみる、なんていうのはいかがでしょうか。また、最新のヒット曲をBGMに使えばそこから若者たちの会話がはじまる、なんていうことも多いはずで

す。そんな時のご参考に、流行発信基地、東京・六本木「ウェーブ」での洋楽LPレコード売上ベスト5をお届けしましょう。

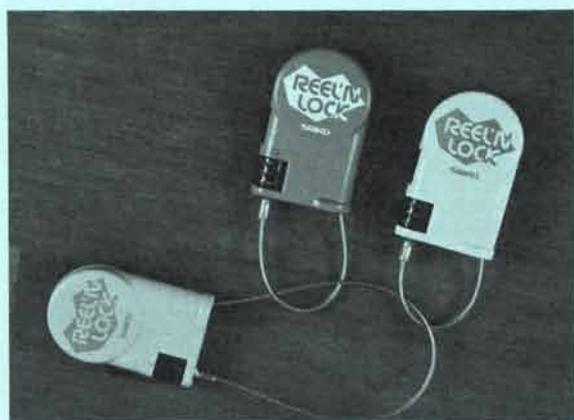
1位	アルバム名	ミュージシャン
2位	インストラクショナル	スティービー・ワグナー
3位	イトゥ・オン・ザ・ウェイ	ダイアナ・ロス
4位	ヒアーズ・トゥ・フューチャー・デイズ	トランジッツイズ
5位	アスカ	トッド・ラングレン
	カラー・オブ・サクセス	モリス・テイ

ACCESSORIE

●のびてちぢんでガッチリとロック
「リールロック・WR-100」

よくもまあと思うくらいに次つぎと便利物が出てくるので、今回紹介するのは伸び縮み自在のワイヤーでどんな物でもロックしてしまうというユニークな鍵です。ダイヤルロック式ですのでキー紛失の心配がないうえ、小型でファッショナブルなデザイン。好みの長さで固定できるワイヤーも長さ1mと充分ツーリング時などの荷物の保管にピッタリの便利ものです。

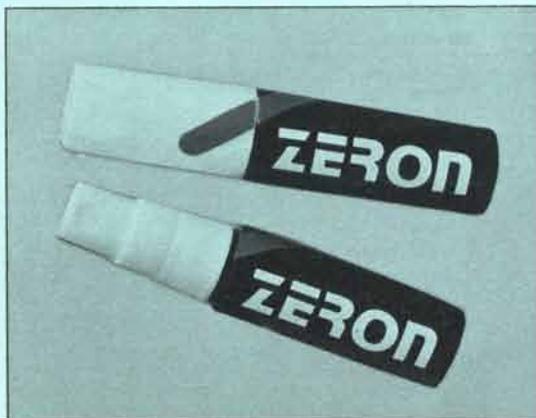
お問合せ：㈱齊工舎 ☎0568(31)6211 / ¥2,200



●いやな匂いをシャットアウト
「天然消臭液・ゼロン」

純天然液使用の消臭剤で安全性は折紙つき、無色無臭のゼロンをパッとスプレーするだけで、いやな匂いを瞬間に消し去ります。ヘルメットやブーツなどの消臭の他、水道水より安全な天然液ですから、身体に直接スプレーして体臭を消すこともOK。ポケットに入れて歩ける小型スプレーなので、エチケットにうるさいツーリングマニアにもうってつけです。

お問合せ：㈱ブランドスライフ ☎03(478)5165 / 12ml入り ¥480



EVENT

●スピードだけが迫力じゃない
「第13回日本グランプリ」
トライアル大会

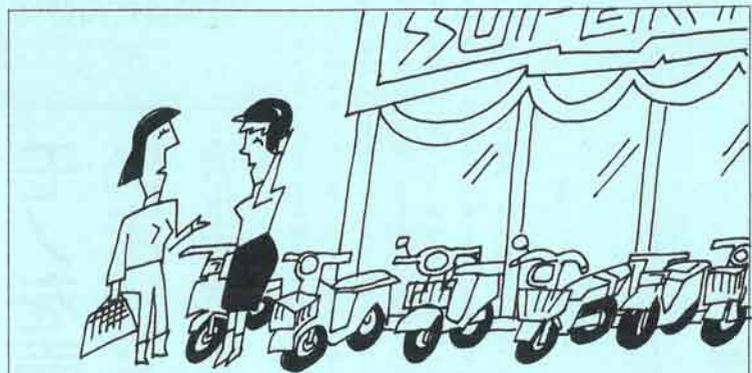
いわずと知れた全日本選手権トライアル大会の最終戦です。今年一年間を戦い抜いて来た各選手の集大成ともいえるべき妙技と、シリーズチャンプを狙うヤマハワークスライダー伊藤敦志選手の活躍に、注目！
開催日/11月10日 開催場所/山形県栗子国際スキー場

♥ホワイトボードで
コミュニケーション

駅の伝言板やペンションなどに置いてある
らく書き帳など、人目につくところに置いて
あるフリーなコミュニケーションのための道
具は、その使われ方も多種多様で、見ている
だけでも結構楽しめるものですね。

これを店内にそのままの形で持ち込んだの
が茨城県のM店さん。ショールーム入口に、
あなたの伝言板”と称したホワイトボードを置
いただけのもですが、お客さま同志の自由
なコミュニケーションツールとして大いに役
立っています。使い方はまったくのお客さま
まかせで、自分の近況報告や売りたい買った
し、イベント案内など、その内容もまさに多
種多様。

人気の秘密はクラブ員だけとか、イベント



だけというような枠をつくっていないところ
にあるようで、一杯に書き込まれた雑情報が
来店するお客さまを飽きさせません。

♥出張点検サービスで需要喚起

代替促進こそこれからの商売のポイント
と言われていますが、買いつばなしでお店に
はまったく顔を出さないというお客さまがと
くに多いスクーターの主婦層などは、再度来
店させるだけでもなかなかむずかしいのです。
そこでヒントをひとつ、価格に左右されや
すい主婦層とは言っても、しっかりと確保し
ておけばかなりの安定需要が得られるはずと、
この層に継続的にアタックしているT店さん
のアイデアです。

相手が来てくれないなら、こちらから出向
いていけばいい。というわけで、スクーター



の婦人層が多く集まるスーパーマーケットの
店頭などへ出かけての出張点検サービスがそ
れ、キャッチフレーズは「お買い物の際にあ
なたのスクーターの健康診断をさせていただきます。」
現在、企画進行中とのことですが、このた
めに小型コンプレッサーまで装備した巡回サ
ービスカーを製作したT店さん、その成果に
かける期待も大きなものがあります。

♥普通免許取得者も
スクーターユーザーのターゲット

いま自動車教習所では普通免許取得希望者
に対しても50ccバイクの実技講習を義務づけ
ていますが、どこの教習所でもこれが人気を
集めているという話題です。

ご承知のとおり普通免許があれば50cc原付
二輪の運転も許されるために受講が義務づけ
られているのですが、講習への参加は教習
生の自由意志。時間の都合がつかない教習生
は座学で簡単な知識を得るだけでも免許取得
にはさしつかえないわけです。

にもかかわらず、この実技講習への参加希
望者はどこの教習所でも教習生の80%以上と
いう盛況ぶりです。この傾向、単に受けられ
るものは受けておこうという教習生の心理的
要因だけでなく、普通自動車免許取得希望者
も50cc原付二輪車に強い興味を持っていると
いうことの、何よりの証拠といえそうです。

♥用品販売はスタンフカードで

ディスプレイ販売で市場拡大を狙う二輪用
品専門店が各地で目立っていますが、こんな用
品専門店に対抗するためにスタンフ式のメンバ
ーズカードを製作したのは宮城県のH店さん。
品揃えはできても価格では用品専門店には
対抗しきれない、しかもバイクはバイク専門
店で、用品は、安い。用品専門店という意
識がユーザーにも定着した感のある最近の市
場を見てH社長は、レコード店などで良くや
っているスタンフカードでの販売を考案しま



つまり、用品を買ってもらうことにその価格
に応じた数のスタンプをカードに押し、規定の
数のスタンプがたまる、相応価格の用品と交
換するというもので、買い揃えていく楽しみ
と予算に合った買い物でオマケも付くとあ
ってお客さまに好評。用品販売でも固定客づく
りができて、大きな成果をおさめています。

♥ヤングの色選び

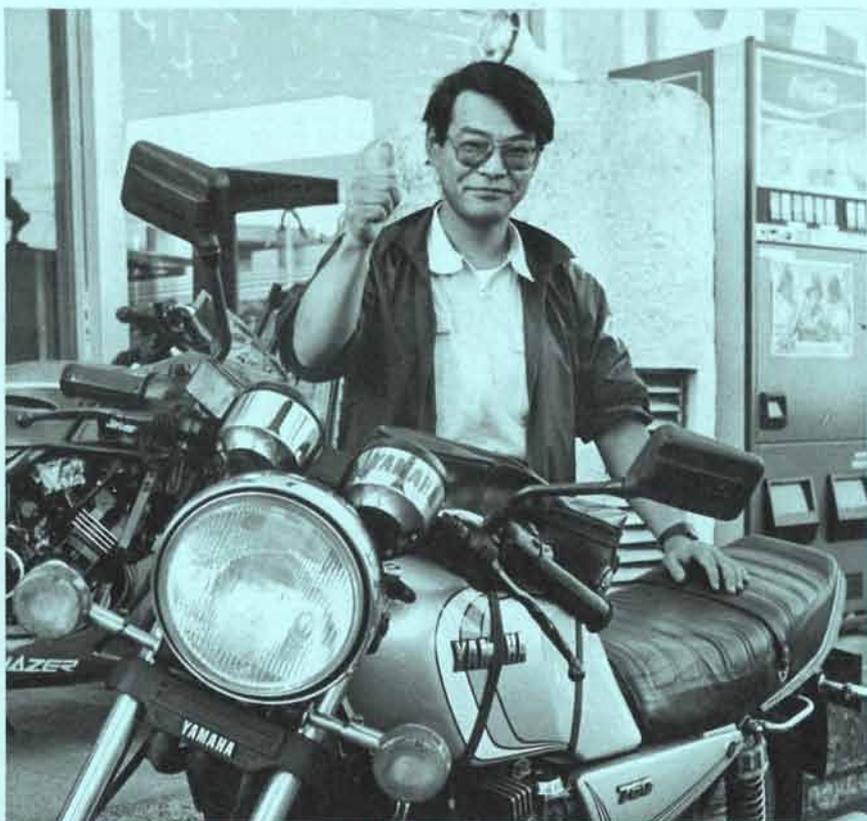
最近街を歩くヤングたちの服装を見ている
と、その色づかいの奔放さに驚かされますが、
そんな中でも特に目に着くのがパステルカラ
ー。ピンクやライトグリーンジャケットに
身を包みながらスクーターに乗ったり、もっ
と極端なヤングになるとスクーター本体をパ
ステルカラーにしたりと、その傾向はますます
顕著になっていくようです。
少し前まではちよつと気取った目立ちたが
りヤングだけの色だったパステルカラーも、
今やヤングの常識。お店の中にもパステルカ
ラーを増やし、ヤングの集客を図ってみては
いかがでしょう。

従業員さん登場

11

モノを売る前に、まず自分を売り込んで
いま、セールスに夢中です！

清水忠さん(34歳)YSP静岡/セールス(静岡市南安倍)



「料金が明確な、ガラス張りの販売のできる店にして
いきたいですね」とくったくなく話す清水さん

バイク好きが昂じて二輪販売の道に入ったという従業員さんは多いのですが、今月はその極めつけとも言えるようなハリキリ従業員さんに登場しました。メカ好き、オートバイ好きに加えて、天性の入付き合いの良さと探究心の深さで、多くのお客さまをひきつける「YSP静岡」さんの清水店長です。

●スペシャリスト目指して
二転、三転

「YSP静岡」さんに就職して5年目、お客さまからの難しい質問にもよどみなく的確に答える清水さん。インタビュも「根っからのオートバイ好きだということ」を前提にし

て聞いてください」という言葉からはじまりました。

オートバイに初めて接したのは高校時代、風を切って自由気ままに走るオートバイに感動した清水さんは、この時以来、オートバイの開発技術者を目指して発奮します。しかし、目指す技術系大学の門は狭く、やむなく文系系大学へと進路変更。それでも就職はオートバイ関係の会社へと初志貫徹して、もともとも気に入ったメーカー「ヤマハ」に就職。その後は第一線の営業マンとして活躍をつづけますが、高校時代からの夢であった。直接バイクに触られる仕事。技術者への憧れは捨て切れず、ある日一大決心をしてヤマハを退社。販売店さんのセールスマンとしての新しい人生を歩みだしたのです。

●サービスからセールスへ
売る楽しさに目ざめる

好きなものに対して食欲になるのは誰しも同じ、清水さんも例外にもれず食欲に仕事を覚え、今年の春には2級整備士の資格も取得しました。

「電気系とキャブレターについて徹底的に覚えようと思って勉強していました。また、レーサーのチューニング技術なんかも修得したいと思っていました。ところがこの春、ちょうど2級整備士に合格したと同時に、社長からこの店の店長になってほしい、という話があったんです。

毎日工場でバイクをいじっているだけの生活だったので接客にはあまり自信を持ってい



社長さんから一言

加藤好造社長
清水くんは、不得意なものに徹底して立ち向かう、という人生訓みたいなものを持っているので、店の他の者にも見習うように言っています。克服したときは欠点が自覚に変わりますからね。どんな時にもこのチャレンジ精神を忘れないうてくれればと思います。

なかつたんですが、色んなバイクに触れて物の良し悪しが解りはじめていたので、お客さんにその知識をフィードバックする良い機会だと思って引受けることにしました。

ところがサービスマン根性っていうのか、お客さんを説得しようと思うと、どうしてもお医者さんが話すようなツキ離れた物の言い方になってしまつて、それが抜けない。これはサービスマンとしてお客さまにアドバイスしているときはいいんですが、セールスとして店頭で話すにはちょっと不向き。とても生意気に聞こえてしまうんですね。

なかなか思うように行かなくて、言葉づかいを直すだけで相当苦労しましたよ。でも、最初のとっかかりができるとお客さんとの会話もスムーズに行き、サービスで身につけた専門的な会話もできるようになってくるんですよ。そうなるまでセールスもが然おもしろくなってくる。

そして、私のアドバイスを聞いてお客さんがオートバイを買ってくれる。モノを売る前に人間を売れ」と社長からよく言われるんですが、まったくその通りだと思いました。

こうして、セールス4ヵ月目を迎え、今度は売ることの楽しさに目覚めた清水さん。当面の希望としては自分と同じようなバイク好きなお客さまを集めてユーザークラブを発足させること、と今日もお客さまの間を忙しく駆け回っています。

ネオンカンの店頭ディスプレイもファッションナブルな「わんわんレディス」さん



女性スポーツバイク・ユーザーの急増につれて、ウェアやグッズなど女性ライダー用の用品を求める声が高まっていますが、名古屋市の販売店・「わんわん」さんでは、そんな女性たちの声にこたえて名古屋市天白区の国道153号線沿いに、レディス用品専門店、その名も「わんわんレディス」をオープンさせました。

女性ライダーのための用品専門店オープン!



女性ライダーに人気のSRX250を配したヘルメットコーナー

82㎡の店内には、女性ライダーに人気の高いFZ250フェーザーやSRX250を中心に、ヘルメット、ウェア、グローブなどの用品類からアクセサリー小物、女性ライダー用アンダーウェアそして化粧品まで、女性のためのライディング用品がめじろおし。接客に当たる4名のスタッフも、もちろんすべて女性です。9月28、29日の2日間にわたって行なわれたオープニング・セレモニ



カフェバー風のカウンターでは、コーヒーサービスも

ーには、モトクロススのヤマハラライダー庄司覚選手や女優の伊藤麻衣子さんもかけて大盛況。つめかけた女性ライダーからも「こんなお店ができるのを待っていました」「店員さんも女性ばかりで親しみやすいですね」と、はやくも人気上々。女性ライダーのために徹し切ったこの「わんわんレディス」、全国でもきわめて例が少ないだけに、今後の展開が注目されています。



ディスプレイのひとつひとつに女性向けの細かい細やかさが感じられる

かぎりなくモータースポーツの輪を広げるYAMAHA

FZ400 RZ250

ユーザー販売店様の側にYAMAHAはがんばっています。

YAMAHA

スポーツランド矢中

入口

ようこそYAMAHAスポーツランド矢中へ

受付は平日朝9時～17時です



みちのく岩手のモータースポーツの新拠点 ヤマハスポーツランド矢中 オープン

〔ヤマハ東北㈱・盛岡営業所〕岩手県盛岡市から車で約1時間ほど南下した紫波郡矢中町に、地元のバイクファン待望の本格的モトクロスコース「ヤマハスポーツランド矢中」がオープンしました。全長1500mのこのコースは、矢中町はじめ地域の方がたの全面的なバックアップをうけて開設されたもので、9月22日に行なわれたオープン記念式典には、谷村町長以下地元の人びとも多数来場。地元モトクロスライダーやゲスト

の鈴木秀明選手らがくりひろげるダイナミックな走りを満喫していました。この「ヤマハスポーツランド矢中」では今後、モトクロス、トライアル、ファミリーバイクレースなどのシリーズ戦とあわせて、バイクレジャーやモトリングなど一般ユーザー対象のイベントも多数企画されており、モータースポーツの振興とライダー育成の新拠点として、地元の販売店さんからも大きな期待が寄せられています。

雨を突いて熱のこもったYZのテストランをつづける専門誌テストライダーのみなさんー



TZR250技術説明会では、直接開発を担当したレーサーグループのスタッフが、詳細に開発コンセプトとメカニズムを説明



ヤマハでは話題性豊かなニューモデルの発売に先がけて、二輪専門誌記者、テストライダー、フリージャーナリスト等の人たちを対象に、技術説明会と試乗会を開催しています。この秋も9月28日には'86YZシリーズの、また10月31日には'86YZシリーのニューモデル「TZR250」の発表会が行なわれました。

はフルモデルチェンジした「YZ125」が、二輪ジャーナリストたちのひととき高い評価を集めていました。一方、発表前から話題が話題を呼んでいる「TZR250」の発表会には、30社約100名もの報道関係者がつめかけ「TZR250」に集まる関心の高さを物語っていました。ツリーディングバイクにフルカウルを付けただけのレーサーレプリカとは全くちがう。いかにもヤマハらしいレーシングスピリットと造りの確かさが感じられる。その声が試乗された方から異口同音に聞かれていました。



袋井ヤマハコースでのTZR250試乗会。加速性重視、走行安定性重視のTZRの走りに満足の声しきり

専門誌テストライダーも絶賛！ '86YZシリーズ、TZR250発表会

'85スーパースタジアム・トライアル開催 ファンを酔わせた驚異のウルトラ・テクニク

インドアで行なわれるスタジアムトライアル大会。'85スーパースタジアム・トライアルが9月22、23日の両日、東京代々木の国立競技場第一体育館で開催されました。

世界選手権トライアルのランキング上位ライダーから5名、全日本選手権シリーズ・国際A級の上位ライダーから13名、計18名のトップライダーがテクニクを競いあったこの大会、外人選手の中には、ジレ・ブルガ(フランス)、トニー・スカレット(イギリス)の両ヤマハライダーも出場。体育館内に設けられた12のウルトラ・ハードセクションに想像を絶するような妙技を披露して、つめかけたファンの人気をさらっていました。

また、23日の大会でTY250Rで3位に喰い込んだブルガ選手は、11月10日に山形県の栗子国際スキー場で開かれる日本グランプリ・トライアル大会にも出場することになっています。



ニューTY250Rで大活躍したフランスのエースG・ブルガ選手

メキシコ大地震の救済にヤマハ発電機を寄贈

9月19日、メキシコ西海岸で発生したマグニチュード7.8の大地震は、メキシコ市を中心に多大な被害をもたらしましたが、ヤマハではこの復旧・復興作業に役立ててもらおうとヤマハ発電機・ET500、ET600各15台、合計30台をメキシコに寄贈しました。

寄贈は10月2日、東京・千代田区にあるメキシコ大使館で行なわれ、お見舞の言葉とともに贈られた目録を手にしたベレス大使補佐官は、「母国では今も休みなく復旧作業がつけられています。それに役立つ貴重なものを数多くいただき心より感謝いたします。日本の多くの方がたから寄せられている援助と励ましに応え、一日も早い復興につとめます」と感謝の言葉にこたえていました。



お見舞の言葉とともに目録を手渡すヤマハ発電機・荻田広報室長に感謝の言葉で応えるベレス・メキシコ大使補佐官

TZR250デビューで話題沸とうの
東京モーターショーへ、
お客さまとおそろいで、お出かけください

The 26th International TOKYO MOTOR SHOW

第26回 東京モーターショー
1985年11月1日→11月11日(10/31日)
(11/11日) 東京・晴海

開場時間：平日…午前9:30～午後4:30 日・祝日…午前9:00～午後5:30

入場料：一般900円(団体30名以上550円) 小中学生400円

後援：通商産業省、運輸省、外務省、建設省、東京都、社団法人東京国際見本市協会
主催：社団法人自動車工業振興会

期間中はバス・船の臨時便が大増発されます。

会場へは自動車・二輪車の乗り入れはできません。

日曜・祝日は大変混雑しますので、平日にご来場下さい。

とも文化、くも新世代



ミニ中継車といっても装備は本格派、館内のあらゆる情報をその機動力を使ってくまなくキャッチ



日本最大のデパートの情報サービスに
ヤマハ・ゴルフカーが大活躍

みなとみらい21計画を推進中の神奈川県横浜市には、都心臨海部に総合整備計画の一環として9月30日に日本最大の売場面積を持つ「横浜そごう」デパートがオープンしました。この館内情報サービスに「ヤマハゴルフカー(バッテリータイプ)」が活躍しています。

この館内情報サービスシステムは、T.I.S.S.(トータル・インフォメーション・サービス・システム)と呼ばれるもので、フロア面積68413㎡という広大な売場を案内する有



ミニ中継車といっても装備は本格派、館内のあらゆる情報をその機動力を使ってくまなくキャッチ

国体ヨット競技にヤマハ・シーホッパー採用決定

(勅)日本ヨット協会は昭和63年の京都国体から新しい競技種目として、成年男子2部を、同時にこの使用艇としてヤマハの一人乗りヨット「シーホッパー」を正式採用しました。

これは、第43回に当る京都国体が2巡目の開催地として初の国体であること、ヨット競技の一層の普及発展をめざして実施されるもの。

とくに、ヤマハシーホッパーの採用は、国体ヨットレースでは初めて国内で設計された一人乗り艇の採用ですが、この背景にはシ



ホッパーが全国で約1万隻と普及率が高く、多くの人が参加しやすいという実情があり、ヨット協会でも、この一人乗り種目の新設が底辺拡大に大きな成果をもたらすものと期待を寄せています。



86スノーモビル&除雪機の拡販に
熱気あふれる出陣式

〔北海道ヤマハ機〕86年ヤマハスノーモビル&除雪機ラインアップの概要は、本誌35ページにご紹介しましたが、オートバイに代わって早くもこうした冬期商品がご商売の主力となる北海道では、10月21～3日の2日間、130店の販売店さんが参加して冬商戦への出陣式ともいえる販売店会議がひらかれました。

10月2日にはヤマハスノーモビルショッパさん、翌3日にはヤマハスノーモビルショッパさんが札幌京王プラザホテルに集合。レジャー需要の伸びで年々販売台数を増やしているスノーモビルと扱いやすさでシェアを拡大するスノーモビルの拡販に、意欲を新たにされたものです。

雨のデッドヒートに酔う 観衆3万5千人

E・ローソン総合優勝

第13回TBCビッグロードレース

●10月5-6日●スポーツランドSUGO

降りしきる雨の中、SUGOロードコースを埋めた3万5千人の観衆は、ローソン、サロン、平、河崎……内外トップライダーのくりひろげるデッドヒートに酔いしれた。

内外のトップライダー15名が熱戦を展開

第13回を迎えたTBCビッグロードレースが、10月5-6日の両日、スポーツランドSUGOに3万5千人の大観衆を集めて開催された。秋のSUGOのビッグイベントとして、ファンには、すっかりおなじみとなったこの大会。今回は'85世界GP 500ccランキング2位のエディ・

ローソン（アメリカ）と同3位のクリスチャン・サロン（フランス）の2人の外人選手を迎え、3年連続日本一を決定したばかりの平忠彦はじめ河崎裕之、長谷川嘉久、木下恵司ら国内のトップライダー13名、総勢15名の選手が30周X2ヒートにわたる熱戦をくりひろげた。

序盤からローソン対サロンの好バトル

決勝レースの行なわれた10月6日は、あいにくの雨。前日の公式予選で1分01秒84のSUGOのコースレコードを樹立したローソンをポールポジションに、注目の第1ヒートが

スタートした。好スタートでとび出したローソンに、今シーズンYZR500に乗って進境著しいサロンがつづく。早ばやと訪れた世界GPのデッドヒート



鮮やかなゴロワースカラーが再びSUGOに戻ってきた。第1ヒートE・ローソンとのトップ争いで会場を沸かせたサロン

最悪のコンディションの中でも定評のステディな走りで両ヒートを制したローソン



11月のレーシング・カレンダー

<11月1-3日>●四輪JAF・GP 鈴鹿
<11月10日>▼全日本選手権⑨・日本グランプリトライアル大会
山形県栗子国際スキー場

カラフルな傘の花が咲いたスタンドを前に①ローソンの
ポールポジションで第1ヒートの開始



第2ヒート、木下との猛烈な2位争いで大いにレースを盛り上げ、
みごと総合でも2位入賞を果たした長谷川とYZR500

つづく第2ヒートでもローソンは
快調。不本意な結果に終わったシリ
ズ戦でのイメージを一新するよう
雨の中でみごとな走りを披露した。

大健闘の長谷川、木下を抜いて2位入賞

の再現が会場を大いに沸かせた。
雨足が一段と激しさを増してきた
12周目、ついにサロンはローソンを
かわしてトップに進出。しかし、今
シーズンの世界GPでヨーロッパ人
として唯一の勝利を収めたサロンが、
その好調ぶりを示したのもつかの間、
16周目に惜しくも転倒し、ローソン
に再びトップの座を明け渡してしま
った。

一方、平、河崎の全日本コンビも
2位、3位をキープしながら、ロー
ソンとの差を縮めようと必死の追い
上げをみせたが結局およばず、ロー
ソン、平、河崎の順で第1ヒートで
終了した。

しかし、人気ライダーの相つづく戦
線離脱で興味の薄れかけていたレー
スを一人もりあげたのが長谷川嘉久
だ。今シーズン全日本ランキング4
位の長谷川は、終盤22周目のストレ
イトで先行するNSRの木下恵司を
パスして2位に浮上。結局ローソン
から遅れること5秒で2位に終った
ものの、日本人ライダーではナンバ
ーワンの果敢な走りに、大観衆の声
援がおくられていた。

総合ではローソンが両ヒート制覇
の完全優勝、大健闘の長谷川が2位、
3位木下とつづいた。なお、ブライ
ベートライダーの中で最高の成績を
収めた選手に贈られる高井幾次郎メ
モリアルカップは、総合4位に入っ
た伊藤巧選手が獲得した。

このローソンに国内勢も必死に喰い
下がるうと激しい追い上げをみせる
が、YZR500では初レースの片
山信二、河崎、平らが相つづいて転倒
リタイヤ。



優勝賞金100万円を手にした
ローソンを中央に2位の長谷川
(左)と3位の木下

応募総数2万1千点。大反響を呼んだ『FZ250フェーザー・ドレスアップコンテスト』

秋のスポーツバイク取扱キャンペーンとして月刊『オートバイ』誌を通じて開催した、『FZ250フェーザー・ドレスアップコンテスト』は、おかげさまで好評のうちに終了しました。

募集から切りまでわずかひと月足らずという短期間にもかかわらず、寄せられた応募作品の総数は、2万1000点。にもほり関係者一同、『FZ250フェーザー』の人気の高さに改めて驚かされたものです。

応募作品の審査は、10月7日、東京・新橋のモーターマガジン社で行なわれ、山のよう集まった作品を前に漫画家・新谷かおる氏、レーシングカーデザイナー・由良拓也氏、オートバイ誌編集長・梶田卓氏の3審査委員の真剣そのもの。

準をみごとにパスした広島県の寺岡徹さん(24才)が最優秀賞を獲得。賞品の『FZ250フェーザー』を手中に納めた他、次の27名の方が各賞に輝きました。

〈ジェネシス賞〉
高西利昭(22歳・長崎県)
新津康子(21歳・北海道)
渡辺俊介(36歳・静岡県)
〈優秀作品〉
木下仁、江口雅美、栗橋伸祐、福田克徳、種岡論、桑原正一、鈴木尚登、熱田仁朗、大倉雅彦、山本正明、屋敷裕昭、近藤真司、洞昌平、河村啓之、島田克俊、B・ピオトロフスキー、ふるやしげき、根岸建雄、三井雅典、長山良伯、奥田勝義、宇佐美浩三、伊沢貴志、坂本竜也
(敬称略)



寄せられた応募作品の山を前に行なわれた審査風景

SAFETY



雨の中で7時間たっぷり白バイ隊員やインストラクターの指導を受ける高校生ライダーのみなさん



バイク通学の高校生を対象にSUZUKIで安全運転講習会開催

実際にバイクを使って通学している高校生を対象に、運転の基本と安全のための危険回避の感覚、技能を身につけてもらおうという「高校生のための二輪車安全運転講習会」が9月16日、ス波特ランドSUZUKIで開かれました。

この講習会は、高校生の二輪事故を防ごうと交通安全を考える会(中村鋭一会長)が、この8月から始めたもので、これが2回目。業界4メーカーがそれぞれ運営を担当、宮城県警察交通機動隊とス波特ラランドSUZUKIの協力のもと開催されたこの講習会には、宮城県立

伊具高校の生徒21名(女子2名)、先生3名(女性1名)が参加。モトクロスコースとロードコースの両方を使って「ブレーキング」「定常円訓練」など6種類の実訓にたっぷり7時間、汗びっしょりになって取組んでいました。

「三不運動」では、高校生の交通事故は防げない——と学校ごとの安全運転教育を提言している、「交通安全を考える会」は、こうして着実な活動を始めています。販売店のみなさまも店頭からの安全指導をよろしくおねがいいたします。

サービス業務の充実にはヤマハ技術講習会をご利用ください

東京、磐田、神戸のヤマハ研修センターで開催しているヤマハ技術講習会の12月度スケジュールをご紹介します。
年末も押し迫って忙しいことと思いますが、ぜひこの機会にお店のサービススタッフにご参加いただき、技術力の向上を図りください。

ヤマハ技術講習会スケジュール

- 研修センター東京
 - 12/3(火)～5(木) 4～DOHC
 - 12/10(火)～12(木) 2～2気筒
- 研修会館(磐田)
 - 12/4(水)～6(金) 2～2気筒
 - 12/11(水)～13(金) 4～DOHC
- 研修センター神戸
 - 12/4(水)～6(金) 4～DOHC
 - 12/11(水)～13(金) 2～2気筒

優秀サービスマン続々誕生

この9～10月の2ヵ月間にも東京、磐田、神戸の3会場では12回にわたるヤマハ技術講習会が開催されました。今月もその中から4

つのコースの卒業生をご紹介します。

- ①9/17～19の2～2気筒コース(東京)
 - 前列左よりホンダ販売寿限無・氏江茂社長、砂川輪業・馬場一義社員、ソネカワサイクル・荏本浩二社員、後列左より八王子サービス・高嶋将司社員、スコールジャパン・小野寺好夫社員、YSP南川崎・三瓶広美社員。
- ②9/26～28の2～単気筒コース(東京)
 - 前列左より山本輪業・吉田誠社員、プロシヨップ齊藤・齊藤和義社員、YSP福山・小林一行社員、YSP調布・西池耕二社員、後列左よりマチタ乗物センター・中野栄三社長、サイクルプラザ・タカハシ・鈴木芳王社員、オートセンターイリヤ(鶴見店)・萬西孝一社員、関口モーターズ(鶴見店)・社員、前橋サービス・戸部英樹社員、オートサービスマベ・江沢英人社員。
- ③10/1～3の4～DOHCコース(東京)
 - 前列左よりYSP川崎中・山崎正俊社員、ベントゴン(86年1月オープン予定)・倉持秀基社長、(有)ビットクルー・松本岳志社員、後列左よりYSP目白・水本幸也社員、

- BIKEHOUSE ZESO・堀善孝社員、YSP品川中央・角泰造社員。
- ④10/2～4の4～DOHCコース(磐田)
 - 左より政野モーターズ・政野治男社員、浦川サイクル・浦川真社員、三信工業(株)・鴨川和則社員、@自転車商会・又平浩幸社員、水野自転車モーター商会・水野繁美社員。



お申し込みは、最寄りのヤマハ特約店、販売会社の営業技術課までお問合せください。

●お申し込みは、最寄りのヤマハ特約店、販売会社の営業技術課までお問合せください。

●品名/TZR250サービスマニュアル

●価格/1,281,997円

●注文番号/3210996

●価格/3,000円

Y.E.S.S.スタッフの会報『Y.E.S.S.ぶれす』が創刊しました

モーターサイクルの新しい世界を切り拓くY.E.S.S.が誕生して早や1年を迎えます。Y.E.S.S.ショップの皆さまには、さぞ'86年度の更新手続きでお忙しいことと思われませんが、来年度も引き続きY.E.S.S.活動を軸としたスポーツバイクの拡販にご尽力くださいますようお願いいたします。

さて、このほどY.E.S.S.では、Y.E.S.S.スタッフのためのコミュニケーションツールとして、独自の会報を創刊しましたのでお知らせします。

その会報とは、写真の『Y.E.S.S.ぶれす』。A4判・8ページ(2色刷+1色刷)の小新聞スタイルで編集したこのY.E.S.S.スタッフニュースは、主にY.E.S.S.スタッフの生の声を集めてまとめたもの。発行は原則として隔月刊として、年間6回の発行を予定しています。皆さまのお店でもぜひご商売のご参考にしてください。



※『Y.E.S.S.ぶれす』は、Y.E.S.S.事務局より直接Y.E.S.S.スタッフに郵送するシステムをとっています。Y.E.S.S.ショップの加盟登録を行なう際には、必ずY.E.S.S.スタッフの登録も同時に済ませてください。なお、詳しくは、担当セールスマンもしくは営業所SLマンまでお問合せください。



チーム・コンボイ

YSP習志野・飯田健人社長 / 千葉県習志野市藤崎2-2-30

今年1年のテストランも終り、来シーズンからいよいよ本格的な活動を始めようという「チーム・コンボイ」は、プロダクションロードレースのクラブ。「スポーツバイクで思い切り走りたい」そんなお客さまのニーズから生まれたフレッシュなクラブです。

●お客さまのニーズから生まれた新しいクラブ

●お客さまのニーズから生まれた新しいクラブ

●お客さまのニーズから生まれた新しいクラブ

「チーム・コンボイ」の活動が始まったというわけです。

●平均年齢21歳

「チーム・コンボイ」のメンバーは総勢25名。プロダクションレース仕様のRZ250Rが10台用意されていますが、ライダーとしてレースに出場するのは、5名だけ。残りの人たちはメカニックやヘルパーとして今年1年間ロードレースを体験し、いよいよ来シーズンから本格的なエントリーを開始することになっています。平均年齢は21歳と、若さいっぱい。

一方の「チーム・コンボイ」は、今年初の月に結成されたばかりのチーム。筑波サーキットで行なわれるプロダクション・ロードレースに参加する人たちのクラブです。つまり、お客さまのバイクの楽しみ方が多様化し、サーキットランやプロダクション・ロードレースをしてみたいという人たちが増えてきたことから「MFR C」とは別個に「チ

「でも実際のところは、ロードレースが大好きという従業員のおかげで、プロダクションレースをやってみようというお客さまも増え、チーム・コンボイも発足したんです。私自身は、モトクロスやトライアルの方が好き。ケガも少なそうだしね……」と笑う飯田社長。とはいえ、筑波サーキットでの走行会にも

頻繁に顔を見せる飯田社長は、この「チーム・コンボイ」の活動をベースに、最近のスポーツバイクユーザーのニーズに対する活動をしつかりと考え、実行されています。そのひとつは、今年5月、筑波サーキットを1時間だけお店で貸切って開催した一般の



飯田健人社長を中央に、チームワークも最高のYSP習志野のスタッフのみなさん

●さらに細分化の兆候も

しかし、お客さまのニーズの多様化から生まれた新しいクラブ「チーム・コンボイ」にもテストラン的1年を終えようとしている近頃では、さらに細分化の兆も表われています。





今年1年は準備期間 来シーズンから本格的な活動開始

「クラブ員の中にはロードレースの頂点を目指して熱くなっている人もいます。一方で「ツーリングの時にワインディングロードを上手に走れるようになればいいんだ」という人もいます。私自身は「チーム・コンボイ」をギンギンのレーシングクラブには、はつきりいってたくはありません。でも、それぞれの会員が目標を持ってやっていることはしっかりとサポートしてあげたいと思っています。そのためには、本格レース派、プロダクシヨンのグループに分化し、「チーム・コンボイ」の活動の輪をさらに広げていくことになるでしょう」というのが飯田社長の構想です。

「もちろん、中心となる実戦派の人たちにはアドバイスや費用面の援助も含めて……ね」とも。

●柔軟に変化する活動内容

一方、スタート以来5年のキャリアを持つ「MFR C」の活動は、というと。こちらはサーキット一直線の「チーム・コンボイ」とは全く逆。フレキシブルに、新しい楽しみをつぎつぎと取り入れて活気に満ちたクラブ活動をにつづけています。

「若い人たちは興味を抱き、実行してみても、飽きてまた別のものに興味が移るそのサイクルがすごく早いからね。MFR C」は、みんなの関心が集中していることを、みんなで楽しむ機会をつくり出していくようにしています。新しいものを次つぎとね」

こうして、オフロードツーリングからモトクロスへ、さらにトライアルへ。また一方で普通のツーリングからラリーなどへ……と「MFR C」は、遊びの幅を広げています。

★
「販売店のクラブ運営のポイントは、お客さまに自由に楽しんでもらうこと。また店としては柔軟性を持ってお客さまに対応していくことでしょう。これからもお客さまのニーズに合ったクラブ活動を展開していきますヨ」と飯田社長はハリキっています。

バイク販売は“責任商売” 安全指導とサービス技術でアフターケアを充実

モトウインド / 小泉和夫社長

東京都中野区野方 1-38-11 電話(386)5918

都心にほど近い住宅街の一角に登場したニューショップ。でも時代感覚いっぱいしのシヨールームに流れているのは、オートバイを愛し、ライダーの心を大切にしている伝統的な「商売」。「渡り客」を引きとめるお店の魅力を小泉和夫社長にうかがいました。

●安全運転「再確認」講習会で若いお客さまを育成

東京の副都心・新宿から国電・中央線でお客さまが10分の高円寺駅前には、大小1500の店が軒を連ねる「あずま通り商店街」があります。その中で17㎡の店舗を構え、創業8年の「小泉サイクル」さんが、今回お訪ねした「モトウインド」さんの本店。商店や住宅の密集地帯とあって店舗面積も限られ、商品展示も思うにまかせない立地のハンデをカバーしようと今年の7月6日、本店からわずか5分、早稲田通りに面した4階建てビルの一階にテナントとして第2店舗を建てられたのです。

店名も「モトウインド」とナウク一新。広さも107㎡と増えた明るい新店舗でハッキリ小泉社長は、先代社長さんから「商売を引継いで7年目。YDSの昔からご自身がのヤマハファンという小泉社長のご商売のモットーは、お客さま1人1人に、オートバイを正しく理解し、安全運転を心がけていただいて、長くオートバイとつきあえるような正統派ライダーに育って欲しい」ということ。そして、こんな小泉社長の考えを、実行させているのがお店のスタッフクラブ「小泉モーターツーリングクラブ」です。創業時からつづいているこのユーザークラ



「愛車を大切に、安全に、長くオートバイとつきあって欲しい」という小泉社長。お客さまへのアドバイスにも、つい熱がこもる

ブは、早くから「安全運転再確認講習会」なるユニークな活動を毎年春と秋の交通安全週間に開催し、お客さまへの安全普及に大きな成果を収めています。

「お客さまの運転技術は少しも変わらないのに商品の進歩が急で、性能がどんどん上がっていった。オートバイの性能に助けられているのに自分のウテがいいと感違いしているお客さんたちに正しい乗り方を指導しようと、知合いの白バイ隊員の方をお願いしたが、この講習会の始まりなんです」

当初は15〜16人の受講者が平均的だったというこの講習会も、今や仲間が仲間を増やしてコンスタントに70名もの参加があるという

盛況ぶりです。

「10代のヤングからオートバイに長く乗って来た50代、60代のアダルトまで、いろいろな世代のいろんなバイク歴の人たちがやってきましたので、乗り方指導ばかりでなく、お客さま同士の交流、若いライダーの教育の場としてもとてもいいですね。また、ライダーとそれを取締る白バイ隊員さんとの交流も生まれ、教えてくれる人たちに迷惑はかけられない」とここ4〜5年、受講したお客さんたちの違反や事故はゼロなんです。

この講習会は、うちの商売の基本活動として長く続けて行きたいと思っています」

●バイクドックもスタート!

この「安全運転再確認講習会」とならぶ「モトウインド」さんのご商売のもうひとつの柱は、充実したサービス技術力です。これは本店の店舗スペースが狭く、商品展示よりも技術・サービス力でアピールしていったかつての伝統を新店舗になっても大切に守っているという小泉社長の心意気を表わすもの。

新店舗のサービスコーナーには、タイヤチェンジャー、ホイールバルancer、CO/H C排ガスステスター、内視鏡スコープ、スチーム洗車機などの最新機器が完備されています。「今のお客さんでオートバイを大切にしませんね。初回点検はたいして来るのに、その後DMを出しても半数しか来ない。来た人のオートバイも洗車やワックスをしたのなんて



数えるほど。ワイヤーは硬くなっちゃってるし……それだけメンテナンス面でも、つくりのいいオートバイに頼り切っちゃってしまってるんですね、さっきの運転技術と同んなじで。そんなの見てみると、どうしても私たち売れる側が、ただこわれた箇所を直すだけでなく日常点検の大切さや、なぜ故障したのかなど指導しなくては……と痛感したんです。

そこで、新店舗オープンと同時にかねてから考えていた人間ドックのオートバイ版、バイクドックを始めようと、テストランを開始したところなんです」

1〜2日の預かりで費用も通常整備の約3割増ですが、細部までしっかりと点検整備され、クリーンアップされた愛車に、お客さまの満足度も倍増。同時にオートバイに対するお客さまの態度もグンとやさしくなってきたといえます。

●これからはアフターケアの時代

お客さまへのアフターケアをなによりも重視する小泉社長に、最後に販売に対する考え方を聞いてみました。

「私たちの商売は『責任商売』だと思います。店・モノ・整備の3つに責任を持たなければ。店はモノを売る場所というより、商品を正しく理解させる場所だと思っています。モノはもろんしっかりした品揃え、そしてお客さまが安心してその商品を使えるサービス技術。とくにこれからは、売ることと同じくらいにお客さまを満足させるアフターサービスを考えていくべきだと思いますね」

ここに紹介した以外にも、お客さまのトラブルに対するオートバイを使っての出張サービスやお客さまが家族ぐるみで楽しめるツーリングの開催など、お客さまサービスにひととき積極的なモトウインドさん。「安いバイクを求めて店から店を見ても『渡り客』を店の魅力だけで、値引きなしで引きとめるだけの自信はあります」という小泉社長の言葉には、大きな説得力がこもっていました。



ヤマハのフルラインアップが並ぶ『モト ウインド』さんのショールーム



▼用品コーナーと商談コーナー。カウンター正面のステール棚には、スベアパーツのストックが整然と並んでサービス力の高いプロショップのイメージを

▼最新の整備機がずらり揃ったサービスコーナー。これらを駆使してバイクドックもスタートした



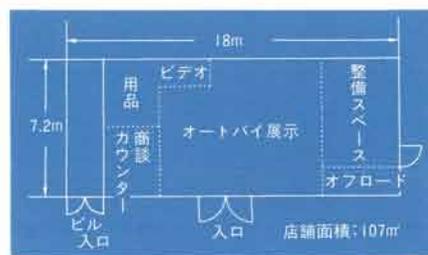
▶ショーウィンドは、オフロードモデルを使って一段と楽しく演出



オープンチラシでもアフターサービス体制をアピール(上) ツーリング参加の呼びかけは手づくりポスターで(下)



小泉社長をはさんで相沢浩和さん(左)と塚田泰喜さん。これが『モト ウインド』さんのオールスタッフ



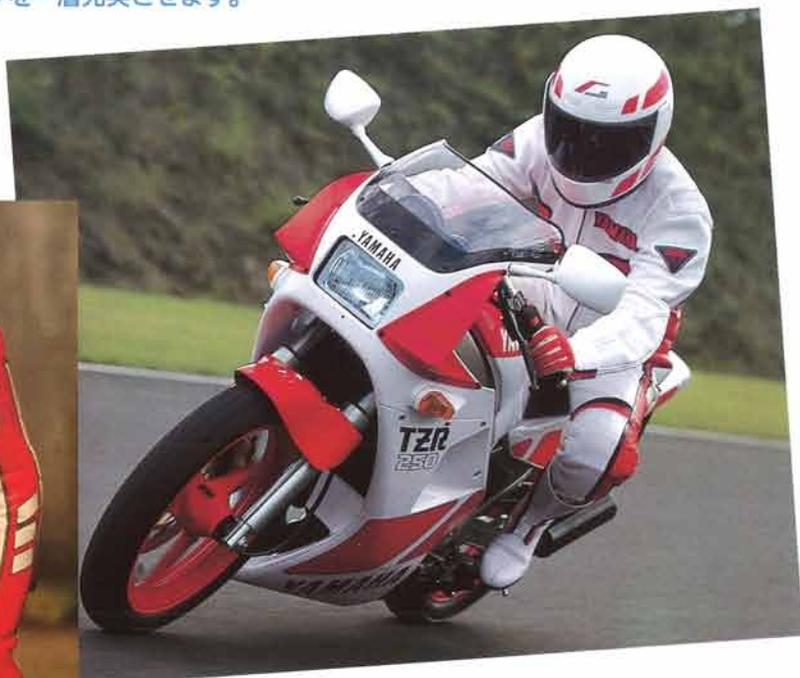
■新商品コーナー

走りに徹したレーシー感覚!

『TZR250』のお客さまに、
バイク&ウェアのトータルコーディネートを!

いま、ホットなスポーツライダーの話題を独占する『TZR250』。レーシングスピリットあふれるTZRの店頭演出やお客さまへのセールスには、必ずウェアやアクセサリートのトータルコーディネイトをおすすめください。

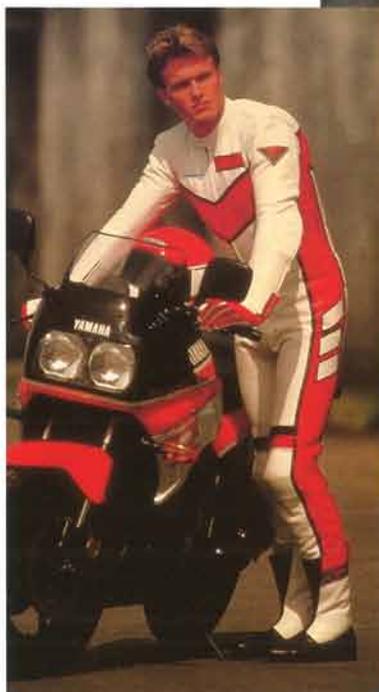
TZR同様にレーシングスピリットいっぱいのアクセサリーグッズやボルトオンパーツは、マン・マシンの一体感をさらに高め、お客さまのバイクライフを一層充実させます。



Y L504 レーシンググローブGR-1

手にジャストフィットする素材と構造、独自のカーティングにより卓越したグリップ感を生むレーシンググローブ。

- 素材：仔牛皮 ●カラー：レッド&ホワイト、ネイビー&ホワイト、サックス&ホワイト
- サイズ：M, L
- 標準小売価格：9,800円



Y L320 ヤマハレーシングスーツ

膝にプラスチックパット、肘にレーシングパット、背中にフルパットを採用し、安全性を徹底追求した本格レーシングスーツ。

- 素材：表/良質牛皮、裏/ポリエステルメッシュ(マーバス)
- カラー：レッド&ホワイト(ブラックライン)
- サイズ：M, L, LL
- 標準小売価格：145,000円



■インフォメーションコーナー

活用ください♪

『デジタルブライスカード』

お客さまの目を引き、ハッキリと価格を伝えて、しかも商品のイメージをそこなわれないブライスカードが完成しました。デジタル数字6桁で構成された『ヤマハ・デジタルブライスカード』です。細字用マジックでぬりつぶすだけで、1円から999.999円までの価格が書き込め、シンナーでふきとれば何回でも使用可能な便利なオリジナルカード。どうぞご活用ください。

- セット内容
ブライスカード(大)×10枚、同(小)×10枚、貼りつけシール(4種類のキャッチ)×10枚
- 幹旋価格
1セット=2,500円

『ヤマハ紙袋』

丈夫で便利な包装袋・2タイプ
ヤマハラディングウェアのロゴが鮮やかな紙製の包装袋。大と中と小の3サイズが用意され、大と中は手下げタイプです。

- 大(530×400×160mm) 1130円
- 中(398×315×115mm) 75円
- 小(380×200×70mm) 45円



'86ヤマハ スノーモビル&除雪機

11月、冬将軍の到来ももう目前。降雪地の販売店さんは、スノーモビルや除雪機など冬期商品のご販売にお忙しい頃でしょう。定評の“雪のヤマハ”は、今シーズンも一段と充実したラインアップで、雪国の暮らしを、レジャーを、活動的にします。

●'86ヤマハスノーモビル

'86ヤマハスノーモビルは、新登場のS340からBR250、ET340、ET340T、PZ480、EC540Jそして限定販売のEC340まで全7機種のフルラインアップです。

*スノーモビルカバー(90890-56907)もどうぞ。



NEW S340

スポーツから業務まで、幅広い機動力を発揮。一般公道も走れる認定モデル。



EC340

和泉雅子さんの北極圏走破行を支えたEC340も、限定販売で登場です。(オフロードモデル)

●'86ヤマハ除雪機

雪国の冬の暮らしの必需品・ヤマハ除雪機もらくらくタイプの実力派YSM-560(5.5馬力)、パワフルな本格派YT-1090(10馬力)に加えて、ゆとりの8馬力YT-875が新登場します。

*スノーメイトカバー(YSM-560、YT-875共用/90890-56906)もどうぞ。



NEW YT-875

始動に、動きに、パワーにゆとり。一步先いく最新マシン。



TZR250ボルト・オンパーツ



シートカウル

レーシーな雰囲気を出すとともに、安定したライディングを約束するシングルシートカウル。

■標準小売価格：12,000円



Y L 608 ヤマハレーシングブーツ

ペダルワークをスムーズにするレーシングブーツ。しなやかな良質牛皮が、優しく足を保護します。

●素材：良質牛皮 ●カラー：ホワイト・ブラック&レッド ●サイズ：24.0cm~27.0cmまで0.5cm単位で7サイズ

■標準小売価格：30,000円



レーシングスタンド

メンテナンスや点検を円滑にするための必須アイテム。パドックをイメージさせるパーツです。

■標準小売価格：6,500円

※詳しくは、最寄りのヤマハ販売会社の部品営業課までお問合せください。



「スーパーバッグ」
こちらは細かなパーツや重いパーツにもご利用いただける強化ポリ袋。大と小の2サイズを用意しました。

●大(590×510×85mm)

●小(430×340×60mm)



